

SYLLABUS

授業概要

◇2025年度◇

湘南医療大学 専攻科

公衆衛生看護学専攻・助産学専攻

教育課程表(カリキュラム表)

<公衆衛生看護学専攻>

教育課程表（カリキュラム表）

専攻科公衆衛生看護学専攻

区 分	授業科目	配当 年次	単位数	1単位 当たりの 時間数	履修方法 及び 修了要件
専 門 領 域	公衆衛生看護学Ⅰ（原論・保健指導論）	前期	2	15	全単位 必修
	公衆衛生看護学Ⅱ（管理論・統合）	通年	2	15	
	公衆衛生看護活動論Ⅰ（ライフサイクル対応型）	通年	2	15	
	公衆衛生看護活動論Ⅱ（健康課題対応型）	通年	2	15	
	ヘルス・プロモーション演習	通年	3	30	
	地域アセスメント演習	通年	3	30	
	公衆衛生看護マネジメント演習	通年	3	30	
	公衆衛生看護学研究	通年	2	30	
関 連 領 域	疫学	前期	2	15	
	保健統計学	前期	2	15	
	保健医療福祉行政論	前期	2	15	
	地域活動特別演習	通年	2	30	
臨 地 実 習	公衆衛生看護学実習Ⅰ	後期	4	45	
	公衆衛生看護学実習Ⅱ	通年	2	45	
修了要件単位数(最低単位数)					33

シラバス

＜公衆衛生看護学専攻＞

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護学Ⅰ (原論・保健指導論)	講義・演習	必修	澤井 美奈子
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2(30)	15	前期	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要

保健師に求められる基本的な資質・能力について理解し、公衆衛生看護の対象、活動方法と活動の場の基本、活動に必要なコミュニケーション技術、理論について学修する。具体的には、傾聴、保健指導などの技術、個人の成長発達、家族支援、保健行動・保健社会学領域の理論を含む。

到達目標

1. 公衆衛生看護の理念、対象、活動方法の基本となる理論や概念について説明できる。
2. 公衆衛生看護が対象とする健康課題や活動方法の基本的な考え方について説明できる。
3. 地域の人々の健康やQOLの維持向上を目指して展開される公衆衛生看護活動のそれぞれの対象に対する看護の展開の基本的な実践プロセスを説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	公衆衛生看護の基本	1章 公衆衛生看護の考え方 理念、基盤となる概念、公衆衛生看護倫理	澤井
2	公衆衛生看護の対象1	2章・3章 公衆衛生看護の対象の考え方 公衆衛生看護活動の場：行政	澤井
3・4	公衆衛生看護の歴史1	10章 保健師活動をテーマにした映画を題材に、公衆衛生看護を考える	澤井
5	公衆衛生看護の歴史2	10章 保健婦誕生の頃の活動から、対象、課題の変化、変わらない役割を考える	澤井
6	社会環境の変化と健康1	4・5章 社会環境と健康 社会資源を活用した健康づくり計画と宣言	澤井
7	社会環境の変化と健康2	個別の健康づくり取り組み発表、 個人～集団の健康づくりのディスカッション	澤井
8	公衆衛生看護活動の展開1	5章 個別の取り組みから見出した課題を振り返り、保健師の活動展開を学ぶ	澤井
11	公衆衛生看護活動の展開2	6章 保健師ならではの活動方法 地域アセスメント、活動の計画から評価まで	澤井
12	事業化と施策化	7章 事業化、施策化	澤井
13	公衆衛生看護の対象2	3章 様々な公衆衛生看護活動の場	澤井
14	健康危機管理	9章 健康危機管理の基本	澤井
15	公衆衛生看護学まとめ	公衆衛生看護の考え方：ディスカッション	澤井

評価	定期試験70%、事前・事後課題およびリアクションペーパー30%
教科書	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/標 美奈子ほか/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04707-4

<p>参考図書 参考WEBページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術/中村裕美子ほか/医学書院/第5版/ISBN:978-4-260-05002-9 ・保健師まるごとガイドー資格のとり方・しごとのすべて/全国保健師教育機関協議会 監修/ミネルヴァ書房 /ISBN9784623064991 ・駐在保健婦の時代1942-1997/木村哲也/医学書院/ISBN978-4-260-01678-0 ・ライフ・プロジェクト-7万人の一生からわかったこと/ヘレン・ピアソン/みすず書房/ISBN978-4-622-08640-6 ・日本における保健婦事業の成立と展開: 戦前・戦中期を中心に/川上 裕子/風間書房/ISBN978-4-7599-1978-3 ・厚生労働統計協会：国民衛生の動向、保険と年金の動向、国民の福祉と介護の動向（最新号） ・保健師ジャーナル(医学書院) ※本学電子ジャーナル有 <p>丸善出版株式会社：DVD 新・地域看護活動とヘルスプロモーション（1～4巻） 他、適宜紹介する</p>
<p>事前・事後学習 留意事項</p>	<p>【事前学習】学修予定の章に目を通す。</p> <p>【事後学習】学習内容の復習、関連する問題を解いてみる。</p> <p>保健師としての基本を学ぶ科目である。関連する社会の動きなどに関心を持ちましょう。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護学Ⅱ (管理論・統合)	講義・演習	必修	村嶋幸代・澤井美奈子・山崎真帆・大高のぶえ
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2(30)	15	通年	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
 保健師活動の中で公衆衛生看護管理が担う機能を明確にすると共に、その重要性を認識してスキルを上げることを目指す。特に、公衆衛生看護管理の8つの機能と前提条件を地域包括ケアシステムの中で位置づけ展開する方法を学ぶ。また公衆衛生看護で用いる理論・モデルを学び、活用できるようにする。後半は公衆衛生看護の専門性、課題について議論し、学修を総括する。

到達目標
 1) 公衆衛生看護管理の目的と特徴、構成する各要素と前提条件について理解し、説明できる。
 2) 公衆衛生看護専門職の自律とスキルについて、評価・研究方法を修得し、その活用方法を説明できる。
 3) 人材育成の観点から、保健師教育の変遷および継続教育の目的と方法について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 公衆衛生看護管理とは	授業の進め方、公衆衛生看護管理の定義、 構成する要素と前提条件	村嶋
2	公衆衛生看護管理の目的と意義 事例管理と地区管理	事例管理と地区管理	村嶋
3	組織運営と管理1	組織運営と管理	村嶋
4	組織運営と管理2	保健師が働く・関わる組織と構造：各組織・部門の目的、 役割や権限	村嶋
5	組織運営と管理3	ワークエンゲージメント	村嶋
6	人事管理と人材育成1	人事管理：業務と人員確保、個別の評価、保健師としての キャリア	村嶋
7	人事管理と人材育成2	コミュニティの健康、サービス提供体制を整備するための 人材育成、継続教育	村嶋
8	保健医療福祉における施策化と事業化	保健計画と事業計画、策定プロセス	村嶋
9	事業計画と予算管理1	保健事業と予算のしくみ、保健事業計画立案と予算の確 保・執行	村嶋
10	事業計画と予算管理2	事業計画書と予算を知る	村嶋
11	公衆衛生看護の質の保証1	地域ケア・公衆衛生看護の現状と社会資源の課題、改善方 法	村嶋
12	公衆衛生看護の質の保証2	質の評価、課題	村嶋
13	情報管理と公衆衛生看護研究	公衆衛生に関連する情報とその管理、倫理と公衆衛生看護 学分野の研究	村嶋
14	まとめ：公衆衛生看護の統合1	公衆衛生看護学を議論を通して統合する	村嶋・澤井 山崎・大高
15	まとめ：公衆衛生看護の統合2	公衆衛生看護学を議論を通して統合する	村嶋・澤井 山崎・大高

評価	ミニテスト・筆記試験50%、課題学習・発表50%
教科書	標美奈子ほか/標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/医学書院/最新版
参考図書 参考WEBページ	井伊久美子他編 [新版] 保健師業務要覧第4版/日本看護協会出版会 厚生労働統計協会 国民衛生の動向/保険と年金の動向/国民の福祉と介護の動向 (各最新号) 丸善出版株式会社 映像メディア部/DVD 新・地域看護活動とヘルスプロモーション (1～4巻) 他、適宜紹介する
事前・事後学習 留意事項	実習先自治体、居住地自治体の事業や社会の動きの情報を用いて進める。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護活動論Ⅰ (ライフサイクル対応型)	講義	必修	山崎真帆・澤井美奈子・大高のぶえ
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位(30時間)	15回	通年	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要

成長・発達期から学童・成人移行期、成人期、老年期における個人と家族の生活と健康課題の特性を理解し、学校、産業など各時期の領域別公衆衛生看護活動に関する制度や法規、保健師の役割と活動について学修する。

到達目標

- 1) 母子保健、成人保健、高齢者保健の動向を理解し、発達課題および健康課題に応じた保健指導の在り方と保健師の役割を説明できる。
- 2) 学校保健、産業保健の動向を理解し、発達課題および健康課題に応じた保健指導の在り方と保健師の役割を説明できる。
- 3) 発達段階、健康課題に応じた個人・家族、集団および組織の生活と健康状態の評価方法について理解できる。
- 4) 人々が主体的に課題を解決できるよう地域の社会資源を活用した支援活動の基本が理解できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 母子保健(親子保健)活動(1)	授業の進め方 母子保健(親子保健)の理念、歴史の変遷、母子保健施策と保健師活動	山崎
2	母子保健(親子保健)活動(2)	母性各期の健康課題と支援	山崎
3	母子保健(親子保健)活動(3)	乳幼児期の成長・発達と健康課題への支援	山崎
4	母子保健(親子保健)活動(4)	支援のニーズが高い親子の健康課題と支援、 母子保健(親子支援)活動の実際	山崎
5	成人保健活動(1) 歯科保健活動	成人保健の理念・目的、歴史の変遷、保健施策と保健師活動、成人期の健康と健康課題、歯科保健の動向	大高
6	成人保健活動(2)	成人期の保健活動の進め方、生活習慣病の予防、特定健康診査・特定保健指導、サポートシステム・社会資源	大高
7	高齢者保健活動(1)	高齢者保健の理念、歴史の変遷、高齢者の保健医療福祉施策と保健師活動	大高
8	高齢者保健活動(2)	高齢者の健康課題と支援	大高
9	高齢者保健活動(3)	高齢者保健活動の実際、地域包括ケア	大高
10	産業保健活動(1)	産業保健の基本	澤井
11	産業保健活動(2)	産業保健における健康課題への対策と支援	澤井
12	産業保健活動(3)	産業保健活動の実際(産業保健師 青木杏)	澤井
13	学校保健活動(1)	学校保健・学校看護の基本	澤井
14	学校保健活動(2)	学校保健活動の実際(養護教諭 伊藤優子)	澤井
15	まとめ	公衆衛生看護活動についてのまとめ (設問を回答しながら、これまでの授業内容を振り返る)	山崎

評価	筆記試験(80%)、課題学習(20%)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動/中谷 芳美ほか/医学書院/第5版/ISBN978-4-260-05303-7 ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術/中村裕美子ほか/医学書院/第5版/ISBN:978-4-260-05002-9 ・厚生労働統計協会:国民衛生の動向(最新版)。

<p>参考図書 参考WEBページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/標 美奈子ほか/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04707-4 ・保健学講座 1 公衆衛生看護学概論/村嶋幸代編/メジカルフレンド社/第1版（最新版）/ISBN：978-4-8392-2188-1 ・保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術/岸恵美子編/メジカルフレンド社/ISBN：978-4-8392-2189-8 ・保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論/岸恵美子編/メジカルフレンド社/ISBN：978-4-8392-2190-4 ・厚生指標増刊 国民衛生の動向 2024/2025/厚生労働統計協会 ・新版 保健師業務要覧 第4版 2024年版/井伊久美子ほか/日本看護協会出版会/第4版/ISBN:978-4-8180-2607-0 <p>他適宜紹介する。</p>
<p>事前・事後学習 留意事項</p>	<p>PCを使用する場合がある。</p> <p>【事前学習】教科書や参考図書の関連箇所を読む。領域別公衆衛生看護活動に関する内容を調べる。</p> <p>【事後学習】配付資料や教科書、参考資料等を復習し、理解を深める。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護活動論Ⅱ (健康課題別対応型)	講義	必修	澤井美奈子、山崎真帆
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位(30時間)	15回	通年	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要

精神・感染症・障害・難病とともに生きる人々の生活と健康課題(強みを含む)の特性を理解し、制度や法規、保健師の役割と活動を学ぶ。また、多様な文化的背景をもつ人々や新たな健康課題に対して自立した公衆衛生看護活動を実践していくための態度・知識・技術について演習を通して主体的に学修する。

到達目標

1)健康課題に応じた保健指導のあり方と保健師の役割を説明できる。
2)精神保健、障害者(児)保健、難病保健の動向を学び、保健師活動の在り方を理解できる。
3)感染症保健の動向を学び、感染症保健施策と保健師活動および疾病管理について説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	難病保健活動(1)	授業の進めかた 難病対策の動向、難病患者への支援	澤井
2	難病保健活動(2)	難病保健活動の実際①	澤井
3	難病保健活動(3)	難病保健活動の実際②	澤井
4	障害者(児)保健活動(1)	障害者(児)保健医療福祉の動向、障害者保健活動	山崎
5	障害者(児)保健活動(2)	障害者(児)保健活動の実際	山崎
6	健康危機管理(1)	健康危機管理の定義と要因、健康危機管理の要素	澤井
7	健康危機管理(2)	健康危機と保健師活動の実際①	澤井
8	健康危機管理(3)	健康危機と保健師活動の実際②	澤井
9	感染症保健活動(1)	感染症保健の動向、感染症保健施策と保健師活動	山崎
10	感染症保健活動(2)	疾病管理(新興・再興感染症と感染症予防、結核、その他の主な感染症)	山崎
11	感染症保健活動(3)	感染症保健活動の実際	山崎
12	精神保健活動(1)	精神保健医療福祉の動向、精神障害者の生活と支援、社会病理を背景とする精神的問題	山崎
13	精神保健活動(2)	産業精神保健	澤井
14	公衆衛生看護活動の展開	特定地域の健康課題と公衆衛生看護活動	澤井
15	まとめ	公衆衛生看護活動Ⅱについてのまとめ	澤井

評価	筆記試験(80%)、課題学習(20%)
教科書	<ul style="list-style-type: none"> 標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動/中谷 芳美ほか/医学書院/第5版/ISBN978-4-260-05303-7 標準保健師講座2 公衆衛生看護技術/中村裕美子ほか/医学書院/第5版/ISBN:978-4-260-05002-9 厚生労働統計協会:国民衛生の動向(最新版)。
参考図書 参考WEBページ	<ul style="list-style-type: none"> 標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/標 美奈子ほか/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04707-4 シンプル衛生公衆衛生学2025/辻一郎ほか/南江堂/ISBN978-4-524-21874-5。 母子保健マニュアル/南山堂/改訂8版/五十嵐隆ほか/ISBN 978-4-525-18448-3 厚生労働白書/厚生労働省/最新版。 https://www.mhlw.go.jp/toukei_hakusho/hakusho/ 新版 保健師業務要覧/日本看護協会出版会/第4版 2024年版/ISBN978-4-8180-2607-0 <p>他、適宜紹介する。</p>
事前・事後学習 留意事項	<p>【事前学習】教科書や参考図書の関連箇所を読む。 単元のテーマに関する内容を調べる(社会の動き、ニュース、制度等)。</p> <p>【事後学習】配付資料や教科書、参考資料等を復習し、理解を深める。 PCを使用する場合がある。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
ヘルス・プロモーション演習	演習	必修	山崎真帆・澤井美奈子・大高のぶえ
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
3単位(90時間)	45回	通年	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
健康な人々に対するアセスメント技術、疾病予防・健康増進につながる、個別を中心とした健康づくり支援について学修する。家庭訪問、健康診査、健康教育、特定健診・保健指導の方法、健康づくりに必要な基本的な知識（疾病予防・ライフサイクル別の特徴）、個別支援の計画から評価、関連する行政施策・保健サービス、社会資源・環境について学修する。個人の感染症予防、地域防災などを含む。技術にはコミュニケーションも含まれる。

到達目標
① 個人／家族が持つ問題解決能力向上に向けた改善方法を対象者が自ら意思決定し実行できるよう支援できる。
② 個人／家族の健康課題に対して、支援技術を活用できる。
③ 個人／家族の健康課題解決のために活用できる社会資源、協働できる人材、機関をマネジメントできる。
④ 個人／家族の支援に生じやすい倫理的問題を説明できる。
⑤ 評価計画に基づき、個人／家族の支援の評価を行うことができる。
⑥ 評価結果より、継続支援の必要性を判断し実施できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～9	親と子の健康づくり	親子保健活動に必要な知識と技術 新生児訪問技術演習、新生児訪問演習 乳幼児健康診査演習、事例を用いた演習	山崎
10～18	成人期の健康づくり	成人期の生活と健康 成人保健活動に必要な知識と技術 健康づくり計画立案～実践・評価 特定健診、特定保健指導、がん対策、演習	大高
19～24	高齢期の健康づくり	高齢者と家族の生活と健康 高齢期の保健活動に必要な知識と技術 事例を用いた演習	大高
25～32	働く人の健康づくり	産業保健活動に必要な知識と技術 働く人を対象とした健康教育の企画実施評価	澤井
33～36	学校における健康づくり	学校保健活動に必要な知識と技術 児童生徒を対象とした健康教育の企画実施評価	澤井
37～41	健康教育の展開	地域における健康教育の位置づけ 健康教育の技術、教育媒体（教材） 健康課題に対する健康教育の展開	山崎
42・43	健康教育の実際	健康教育演習・発表	山崎・澤井 ・大高
44・45	まとめ	保健師によるヘルス・プロモーションのまとめ	山崎

評価	単元ごとの演習・課題への個別の取組（70%）、発表と議論（30%）
教科書	・標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/標 美奈子ほか/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04707-4 ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術/中村裕美子ほか/医学書院/第5版/ISBN:978-4-260-05002-9 ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動/中谷 芳美ほか/医学書院/第5版/ISBN978-4-260-05303-7

<p>参考図書 参考WEBページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健指導で高血圧パドックスの解消へ 保健指導の現場の疑問に答える/菱田明ほか編/東京医学社/ISBN978-4-88563-721-6 ・保健活動で使える！ ナッジ 押さえておくべき基本と実践例/高橋勇太ほか著/医学書院/ISBN978-4-260-05123-1 ・多職種で進める糖尿病性腎症重症化予防/日本糖尿病教育・看護学会編/ISBN978-4-8180-2768-8 ・実践 行動変容のためのヘルスコミュニケーションー人を動かす10原則/奥原剛著/大修館書店/ISBN978-4-469-26910- ・標準的な健診・保健指導プログラム（令和6年度版）/社会保険出版社/ ISBN978-4-784-60365-7
<p>事前・事後学習 留意事項</p>	<p>主体的な演習形式で展開する。</p> <p>【事前学習】教科書や参考図書の関連部分を読む。公衆衛生看護活動に関する内容を調べる。</p> <p>【事後学習】配付資料や教科書、参考資料等を復習し、理解を深める。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域アセスメント演習	演習	必修	大高のぶえ・澤井美奈子・山崎真帆
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
3単位（90時間）	45回	通年	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
 人々の生活の場である地域・集団について各資料をもとに顕在的・潜在的課題を可視化するとともに、その解決方法を考える。地域・集団に属する全ての人々の健康水準の向上を目指す。演習を通して、公衆衛生看護活動に必要な情報処理・ICTの知識・技術も身につける。

- 到達目標**
- 1) 地域診断の目的、意義、理論について説明できる。
 - 2) 地域特性をとらえる情報収集ができる。
 - 3) 地域の情報をアセスメントし、地域の健康課題や関連要因を抽出できる。
 - 4) 地域診断に基づく活動計画、実践、評価について説明できる。
 - 5) 住民ニーズの施策等、地域における組織的な解決方法を説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 地域診断の概念 地区踏査計画について	授業のすすめ方 地域支援の基本となる考え方と支援方法 地域診断の目的・意義 地区踏査と地区踏査計画について	大高
2	地域診断の展開・実践（1）	既存の資料を用いた情報収集 地区踏査計画の作成、提出	大高
3～4	地域診断発表（1）	各グループでまとめた地区踏査計画の発表、意見交換 地区踏査計画の修正、提出	大高
5～7	地区踏査（1）	特定地域の地区踏査の実施 地区踏査実施報告書の作成、提出	大高
8～9	地域包括ケアシステムの構築	地域包括ケアシステムの概念、個人や組織の役割、住民との パートナーシップ、関係機関の連携	大高
10～11	地区踏査（2）	特定地域の地区踏査の実施 地区踏査実施報告書の作成、提出	大高
12～15	地域診断の展開・実践（2）	「コミュニティアズパートナーモデル」 コミュニティコアとサブシステムについて、情報収集、アセス メント	大高
16～17	量的データと質的データ 健康課題の抽出	統計データと情報分析、住民のニーズの把握、インタビューの 進め方 健康課題の分析、優先性、健康課題解決のための方策	大高
18～19	地域診断発表（2）	各グループでまとめた地域診断の発表、意見交換	大高 澤井・山崎
20	保健事業の見直しと事業化へのプロセス 事業の評価	「プリシード・プロシードモデル」 活動の計画・実践、事業計画策定、評価	大高
21	地域診断の展開・実践（3）	既存資料や地区踏査から得た情報を分析し、まとめる 地区踏査計画の作成、提出	大高 澤井・山崎
22～24	地区踏査（3）	特定地域の地区踏査の実施 地区踏査実施報告書の作成、提出	大高
25～26	GISを使った地域診断	GISを使った地区診断	大高
27	地域診断の展開・実践（4）	既存資料や地区踏査から得た情報を分析し、まとめる 地区踏査計画の作成、提出	大高 澤井・山崎
28～29	地域診断発表（3）	各グループでまとめた地域診断の発表、意見交換	大高 澤井・山崎
30～32	地区踏査（4）	特定地域の地区踏査の実施 地区踏査実施報告書の作成、提出	大高

33	地区組織活動への支援	保健師による地区組織活動 セルフヘルプグループ等への支援	大高
34	地域診断の展開・実践（5）	既存資料からの情報収集や地区踏査を通じて学んだ地域の特性や健康課題についてまとめる 実習に必要な事前資料の作成	大高 澤井・山崎
35～36	地域診断発表（4）	特定の地域の地区踏査を実施する	大高 澤井・山崎
37～38	地域診断の展開・実践（6）	既存資料からの情報収集や地区踏査を通じて学んだ地域の特性や健康課題についてまとめる 実習に必要な事前資料の作成	大高 澤井・山崎
39～40	地域診断の展開・実践（7）	実習を通じて学んだ地域の特性や健康課題について意見交換をし、学びを振り返りまとめる（発表準備）	大高 澤井・山崎
41～42	地域診断発表（5）	実習を通じて学んだ地域の特性や健康課題について意見交換をし、学びを振り返る（発表）	大高 澤井・山崎
43～44	保健事業計画策定・事業評価	保健医療福祉における施策化と事業化 議会の実際を知る	大高
45	まとめ	地域アセスメントについてのまとめ	大高

評価	課題学習（50%）、発表（30%）、小テスト（20%）
教科書	標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/標美奈子ほか/医学書院/第6版（最新版）/ISBN978-4-260-04707-4 厚生指針 増刊 国民衛生の動向 2024/2025（最新版）/厚生労働統計協会/ISBN491-0-038-54084-2
参考図書 参考WEBページ	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術/中村裕美子ほか/医学書院/第5版（最新版）/ISBN978-4-260-05002-9 ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動/松田正己ほか/医学書院/第5版（最新版）/ISBN978-4-260-05303-7 ・公衆衛生看護学テキスト 第2巻 公衆衛生看護の方法と技術/佐伯和子編/医歯薬出版/第2版（最新版）/ISBN978-4-263-23805-9 ・保健学講座 1 公衆衛生看護学概論/村嶋幸代、岸恵美子編/メジカルフレンド社/第1版（最新版）/ISBN：978-4-8392-2188-1 ・コミュニティ アズ パートナー 地域看護学の理論と実際/エリザベス T.アンダーソン著 金川克子訳/医学書院/第2版/ISBN978-4260003261 ・地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド 第2版 地区活動ならびに施策化のアセスメント・活動計画・評価計画の立案/佐伯和子編著/医歯薬出版/ISBN978-4-263-23710-6 ・令和6年版 厚生労働白書（最新版）/厚生労働省編 ・国民の福祉と介護の動向 2024/2025（最新版）/厚生労働統計協会/ISBN491-0-038-54094-1
事前・事後学習 留意事項	<p>演習、発表を主とした授業形式で展開する。PCを使用する。</p> <p>【事前学習】教科書の該当箇所や参考図書を読み、講義や演習等に関連する内容を調べて参加する。</p> <p>【事後学習】演習や発表等で不十分であった内容について調べ確認する。次回の演習や発表等に向けて準備をする。配布資料や教科書等を復習し、理解を深める。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護 マネジメント演習	演習	必修	澤井美奈子・山崎真帆・大高のぶえ
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
3単位(90時間)	45回	通年	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
 特定のハイリスクな人や家族への支援展開、健康危機管理に関連する制度や法規、それぞれにおける保健師の役割と活動について演習を通して学修する。そのうち、特定の地域や集団を対象に、個の健康課題から地域の健康課題を見出し、集団や社会、環境に働きかける、保健師の地区活動、連携と協働、事業化、施策化について演習で展開する。

到達目標

- ・公衆衛生看護管理について、事例を通して関連法規や自治体の制度を理解する。
- ・特定地域や集団を対象に個/地域の健康課題を見出し、目的に沿って集団や社会・環境に働きかける。
- ・保健師の地区活動、連携と協働について演習を通して理解する。
- ・保健師の立場に応じた役割と活動、事業化、施策化について学修する。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～3	公衆衛生看護活動における質の保証と管理	・公衆衛生看護活動と公衆衛生看護管理 ・特定地域における公衆衛生看護管理の実際	澤井
4～7	災害	・災害の種類、関連する法制度、地域防災計画 災害の発生に備えた広域的な支援制度やシステム ・都道府県、市町村保健師の役割 リスクマネジメントのプロセス	澤井
8～11	感染症	・感染症対策の理念と変遷、法制度・組織・システム 感染症対策 ・事例を用いた演習	山崎
12～14	障がい	・母子（こども）、精神を含む様々な障がい ・関連法制度と動向、システムとネットワーク ・演習	山崎
15～22	地域の高齢化	・特定の小地域の健康課題 ・地域活性化を目的とした事業の展開を通し公衆衛生看護管理、施策化を理解する	大高
23～25	難病	・難病療養者と家族の生活と課題 ・国や地方の取り組みと行政保健師の役割 ・事例を用いた演習	澤井
26～31	事業展開における管理1	・産業保健における個人・組織の健康課題と管理 ・産業保健アセスメントの演習 ・目的に応じた事業の企画、実施、評価	澤井・大高
32～35	事業展開における管理2	・学校保健における個人・組織の健康課題と管理 ・学校保健アセスメントと学校保健計画、事業の理解	澤井・大高
36～43	事業展開における管理3	・個人・家族・地域の多様な健康課題と管理 ・特定の課題を用いた演習（大学祭事業ほか） ・目的に応じた事業の企画、実施、評価	澤井・大高
44～45	まとめ	・多様な背景と公衆衛生看護管理 ・講義、演習、実習を統合し、発表、議論を行う ・保健師活動における公衆衛生看護管理のまとめ	澤井・山崎 大高

評価	単元ごとの演習・課題への個別の取組（70%）、発表と議論（30%）
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論/標 美奈子ほか/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04707-4 ・標準保健師講座2 公衆衛生看護技術/中村裕美子ほか/医学書院/第5版/ISBN:978-4-260-05002-9 ・標準保健師講座3 対象別公衆衛生看護活動/中谷 芳美ほか/医学書院/第5版/ISBN978-4-260-05303-7

<p>参考図書 参考WEBページ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術/岸恵美子編/メジカルフレンド社/ISBN：978-4-8392-2189-8 ・保健学講座3 公衆衛生看護活動展開論/岸恵美子編/メジカルフレンド社/ISBN：978-4-8392-2190-4 ・厚生指標増刊 国民衛生の動向 2024/2025/厚生労働統計協会 ・新版 保健師業務要覧 第4版 2024年版/井伊久美子ほか/日本看護協会出版会/第4版/ISBN:978-4-8180-2607-0 <p>電子ジャーナル、オンライン上の情報を活用する。 その他、適宜紹介する。</p>
<p>事前・事後学習 留意事項</p>	<p>事例や社会の動きに対応する主体的な演習形式で展開する。</p> <p>公衆衛生看護管理の基本である自己管理、各課題グループにおける連携、協働を考えながら活動すること。 本学図書館のジャーナルを閲覧できるようにしておくこと。</p> <p>【事前学習】 関連法規、理論など、単元ごとに関連する知識、技術、ニュースを調べて参加すること。</p> <p>【事後学習】 演習で不十分であった知識、技術を定着させる。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護学研究	講義・演習	必修	澤井美奈子・村嶋幸代・山崎真帆・大高のぶえ
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2(60)	30	1	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
 講義や演習・実習を通してそれぞれが見出した公衆衛生看護に関するテーマについて研究的手法を用いて探究するプロセスを通し、公衆衛生看護職に必要とされる、文献講読力、根拠に基づく実践能力・プレゼンテーション能力・施策化能力の基盤を身につける。

- 到達目標**
- ① 研究と倫理(それぞれの研究に対応した倫理指針、公衆衛生看護の倫理と法律)について説明できる。
 - ② 活動領域・目的に応じた適切な調査・研究方法と倫理的配慮を用いることができる。
 - ③ 研究は人々の健康と生活の質の向上を目的とし、公衆衛生看護実践の探究、向上に必要であることを説明できる。
 - ④ 得られた情報を適切に分析し、地域診断や新たな事業の検討につなげる方法について説明できる。
 - ⑤ 既存の研究結果や知見を研究及び実践に活用する方法について説明できる。
 - ⑥ 自身の研究課題、目的のために既存の研究成果から知識を得て、自分の研究を深めることができる。
 - ⑦ 公衆衛生看護学研究で用いられる主要な研究方法について説明できる。
 - ⑧ 公衆衛生看護学分野における一連の研究過程を、指導を受けながら実施することができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	公衆衛生看護学研究とは	公衆衛生看護学における研究の意義 研究倫理審査と研究倫理e-ラーニング受講について 学校や社会経験における、研究の学び、実践経験を振り返る。 研究課題の探求：公衆衛生看護の関心を広げキーワードを 研究計画の立て方と研究のプロセス	澤井
2・3	文献レビューと図書館の活用	湘南医療大学図書館利用方法、文献検索、様々な探し方と注意点	図書館司書 (深澤)
4～5	研究課題の探求	個別相談、文献検索をすすめ、研究目的、研究方法や対象を考え研究 テーマを絞り、決定する。	澤井
6-8	研究に取組む準備	担当教員の決定 ・文献検討、研究計画書作成をすすめる(執筆要領に則り記述) 予備調査やインタビュー、分析の練習をする。	澤井・村嶋 山崎・大高
9-10	文献検討・研究計画発表会	文献検討、テーマ、目的、対象と方法、仮説を発表。 意見交換を行い、研究計画の修正、改善を行う。	澤井・村嶋 山崎・大高
11-14	プレ調査と研究計画	研究計画をたて、プレ調査を実施する。 プレ調査結果を参考に、調査・分析方法を検討し、 研究計画書、必要書類を作成する。	澤井・村嶋 山崎・大高
15・16	研究における倫理	研究計画書等必要書類をすべて作成する。 模擬研究倫理審査を行い、研究倫理の大切さを学ぶ。 (本審査受審希望者は相談の上準備を進める。)	澤井・村嶋 山崎・大高
17-18	研究を行う	研究計画書・必要書類を完成させ教員の確認を受けた後、 調査研究を進める(講義、ゼミ、個別相談等の形式)。 中間発表会：発表方法、企画運営や質疑応答を経験する。	澤井・村嶋 山崎・大高
19-21	学会に参加する	神奈川公衆衛生学会に参加する。 学会における発表方法や態度、運営などを学ぶ。	澤井・村嶋 山崎・大高
22-24	研究中間発表会	抄録、PPTを作成し、決められた時間での発表、会の運営を学ぶ。 意見交換を行い、修正、改善を行う。	澤井・村嶋 山崎・大高
25～27	研究を完成させる	分析を進め、論文作成、発表資料作成を行う。	澤井・村嶋 山崎・大高
28～30	研究報告会	研究成果を他者に伝え、他者の成果を聞き、質疑に参加することで互 いに研究の内容を深める。会場設営について学ぶ。	澤井・村嶋 山崎・大高

評価	授業・演習への取り組み30%、課題レポート・文献検討30%、 研究レポート40%（データ取り・データ分析方法、倫理的配慮、論文の形式、論理性、発表）
教科書	系統看護学講座別巻 看護研究/坂下玲子ほか/医学書院/ISBN978-4-260-04995-5

<p>参考図書、WEB等</p>	<p>標準保健師講座1 公衆衛5看護学概論/標 美奈子ほか/医学書院/第6版/ISBN:978-4-260-04707-4 看護研究のための文献レビュー マトリックス方式 第2版/ジュディス・ガラード著/安部 陽子訳/医学書院/ISBN978-4-260-05781-3 APAに学ぶ看護系論文執筆のルール 第2版/前田 樹海, 江藤 裕之/医学書院/ISBN978-4-260-05290-0 ほか適宜紹介する。</p>
<p>事前・事後学習 留意事項</p>	<p>【事前学習】履修にあたり、各教科書、関連書籍を読み、社会の動きに関心を持ち、研究ノートを作る。 【事後学習】学びを復習し、自身の調査研究分析に活用する。 ※約束事項 1.主体的に行動し進行状況の報告をする 2. 協力し合いお互いにより良い研究にする</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
疫学	講義	必修	竹内 文乃
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	前期	講義時間前後

<p>授業概要</p> <p>本講義では、公衆衛生看護活動に関係する多種多様な情報を整理、分析し、健康課題を抽出、改善するために必要な、疫学の概念、疾病頻度の指標、曝露効果の指標、疫学調査法、スクリーニング、疾病登録、公衆衛生分野における主な疾患の疫学等について学習をする。疫学調査法、社会疫学、政策疫学、臨床疫学、産業保健の疫学を含む内容とする。疫学の概念、因果関係、指標、暴露など疫学で使用される基本用語について学習する。保健師資格の取得を目指す学生のために、疫学調査法、社会疫学、政策疫学、臨床疫学、産業保健の疫学を含む内容とする。</p>

<p>到達目標</p> <p>疫学とは何か、疫学の歴史的変遷について理解できること。疫学の視点から、医学・看護学のデータを扱う統計の考え方について理解できること。疫学の尺度と指標を理解し、統計データの処理、実務的な活用の仕方がわかる。医療、看護の実践場面でパソコンや電卓により遭遇しやすい疫学としての統計内容について適切な処理とその評価ができる。さらに公衆衛生看護活動やそれらに関連する論文・報告書等を読み、研究デザインや解析手法を理解した上で批判的吟味ができるようになる。研究デザインや解析がそれぞれ持つ特色や長所短所を理解して文献検索・精読ができるようになり、自身の研究にも生かすことができるようになる。</p>
--

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	疫学研究入門	疫学研究とそのデータ解析について概観し、受講者の知識レベルの確認と標準化を行う	竹内
2	疫学研究の基本的な用語理解	疫学研究で品種鬱の用語とその定義を明らかにする	竹内
3	疾病の原因・疫学な因果関係の考え方	疫学研究に必要な因果の考え方について学ぶ	竹内
4	疾病頻度の表し方・曝露の効果を表す指標	疾病頻度や曝露の指標について学び計算できるようになる	竹内
5	疫学研究の様々なデザイン：コホート研究	古典的なコホート研究について論文を読み解析手法について学ぶ	竹内
6	疫学研究の様々なデザイン：ケースコントロール研究・その他	古典的なケースコントロール研究について論文を読み解析手法について学ぶ	竹内
7	疫学研究の質	疫学研究の限界を踏まえ質の評価ができるようになる	竹内
8	疫学研究に必要な統計学	疫学研究のデータを解析するのに必要な統計について学ぶ	竹内
9	スクリーニング	地域保健や感染症予防に必要なスクリーニングについて学ぶ	竹内
10	疫学各論（臨床疫学とエビデンスに基づく看護）	ここまでの知識を踏まえて論文を選び、受講者と精読する	竹内
11	疫学各論（地域保健）	ここまでの知識を踏まえて論文を選び、受講者と精読する	竹内
12	疫学各論（社会疫学）	ここまでの知識を踏まえて論文を選び、受講者と精読する	竹内
13	疫学各論（ライフコース疫学）	ここまでの知識を踏まえて論文を選び、受講者と精読する	竹内
14	疫学各論（感染症疫学）	ここまでの知識を踏まえて論文を選び、受講者と精読する	竹内
15	疫学各論（循環器疫学）	ここまでの知識を踏まえて論文を選び、受講者と精読する	竹内

評価	10-15回での論文精読における参加度・発表の習熟度で評価を行う
教科書	「基本からわかる 看護疫学入門 第3版」 大木 秀一著 医歯薬出版社
参考図書 参考WEBページ	得になし
事前・事後学習 留意事項	保健師国家試験の過去問

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
保健統計学	講義	必修	古田 裕亮・塩田 藍
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	前期	各講義前・終了後

授業概要

データの種類と分布、測定と尺度、確率分布、代表値と散布度、関連指標など統計学の基礎、人口静態統計、人口動態統計、生命表、主な健康指標などの人口統計、根幹統計や医療経済統計などの保健統計調査について学修する。情報処理の技術、統計情報の活用方法については公衆衛生看護活動に必要な技術を修得する。併せて、情報活用における人権への配慮、プライバシー保護など倫理的配慮の必要性を理解する。

到達目標

1. 基本的な統計値の意味を理解し、計算ができる。
2. 統計の手法の種類を理解し、結果の読み取りができる。
3. 統計データの実務的な処理、活用の仕方ができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	ガイダンスと導入	ガイダンス・保健統計学	古田・塩田
2	データの種類と要約	データの尺度・要約統計量	古田・塩田
3	表と図の活用	主要なグラフの特徴と使い方	古田・塩田
4	確率分布	代表的な確率分布	古田・塩田
5	相関	相関関係	古田・塩田
6	回帰	回帰分析・重回帰分析	古田・塩田
7	推測と検定①	記述統計学と推測統計学、推定と検定	古田・塩田
8	推測と検定②	平均値の差の検定	古田・塩田
9	推測と検定③	順序尺度のデータの検定	古田・塩田
10	推測と検定④	分類されたデータの検定、カイ二乗検定	古田・塩田
11	人口統計	人口静態統計、人口動態統計、生命表	古田・塩田
12	保健統計調査	様々な統計調査	古田・塩田
13	医療経済統計	医療経済統計	古田・塩田
14	情報処理	情報処理、文献検索	古田・塩田
15	まとめ・外部講師講義	説明・理解が十分でない項目に対して必要に応じて補講を行う。また、外部講師による講義を予定。	古田・塩田

評価	小テスト50%，定期試験等70%とし評価する。
教科書	ていねいな保健統計学 第2版 白土亮吉、鈴木研太著 羊土社
参考図書 参考WEBページ	後日提示する。
事前・事後学習 留意事項	事前学習や事後学習内容とオフィスアワーは、初回講義時に提示する。毎回、各自のパソコンを用いExcelを用いたデータ処理を行う。Excelの使用できる環境を準備されたい。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
保健医療福祉行政論	講義	必修	彦根 倫子、玉川 淳、門 敦之
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	前期	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
 保健医療福祉行政・財政の理念としくみ、地域の健康課題の解決に必要な社会資源の開発、保健医療福祉サービスの評価と調査方法について学習する。また、地方公共団体の保健医療福祉行政施策の計画策定、実行、評価のサイクルを学習する。これらを踏まえて、公衆衛生行政の各分野における保健師の役割、地域での活動方法の基本を学習する。

到達目標

- 1) 近代公衆衛生の歴史を学び、時代と社会的要因の変遷に伴う健康問題への対応と施策の発展を理解できる。
- 2) 保健医療福祉行政の理念としくみ、社会保障の動向を理解できる。
- 3) 地域保健行政と保健師活動を説明できる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1	オリエンテーション 保健医療福祉行政の基本	授業の進め方、保健医療福祉行政の根拠、公衆衛生の理念と戦略（教科書 p.1-20）	彦根
2	保健医療福祉制度の変遷	公衆衛生の基盤形成、保健医療福祉行政の動向（教科書 p.21-60）	彦根
3	保健医療福祉行政・財政の理念としくみ	行政のしくみと役割、行政における保健師の活動、保健医療福祉の財政（教科書 p.61-88）	彦根
4	地域保健行政と保健師活動	保健所と市町村保健センター、関係機関との連携（教科書 p.99-126）	彦根
5	介護保険制度	介護保険制度の概要・サービス、地域包括ケアシステムにおける保健師の役割（教科書 p.158-172）	彦根
6	社会保障制度	社会保障制度の理念としくみ（教科書 p.127-134）	玉川
7	医療制度と政策	医療制度と医療保険、医療提供体制（教科書 p.135-157）	玉川
8	社会保障・社会福祉の制度（1）	年金保険、雇用保険と労働者災害補償保険（労災保険）（教科書 p.173-180）	玉川
9	社会保障・社会福祉の制度（2）	公的扶助（生活保護）、児童家庭福祉、高齢者福祉、障害者福祉、成年後見制度と日常生活自立支援事業（教科書 p.181-194）	彦根
10・11	公衆衛生に関する国際的な活動	保健医療福祉分野における国際協力、活動の実際（教科書 p.89-97）	門
12	保健医療福祉の計画と評価	地方公共団体の保健医療福祉計画、保健計画の策定プロセス（教科書 p.195-226）	彦根
13	保健事業の立案のプロセス	保健計画の推進と評価、保健事業の立案プロセスを学ぶ（教科書 p.227-254）【演習】	彦根
14・15	発表とまとめ	保健計画・事業計画の発表【演習・発表】 保健医療福祉についてのまとめ	彦根

評価	定期試験（70%）、演習・発表（30%）
教科書	・標準保健師講座 別巻1 保健医療福祉行政論/藤内修二ほか/医学書院/第6版/ISBN：978-4-260-05673-1 ・厚生指針増刊 国民衛生の動向 2024/2025/厚生労働統計協会

参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	【事前学習】教科書や参考図書の関連個所を読む。保健医療福祉行政に関する内容を調べる。 【事後学習】配付資料や教科書、参考資料等を復習し、理解を深める。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域活動特別演習	講義・演習	必修	山崎真帆・川本利恵子・村嶋幸代・澤井美奈子・青島恵美子 ・今野和穂・大高のぶえ・富井悦子
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2(60)	30	1	授業の前後及びメールで受け付ける

授業概要
 専攻科の所在する地域を拠点として、地域志向性、異文化理解、連携・協働と多文化共生をキーワードに、地域特性や地域資源、地域に暮らす人や組織について主体的、能動的に探究する。ゼミを通して複眼的に公衆衛生看護の専門性、可能性を見つめ、自己のキャリアについて考える。

- 到達目標**
1. キャンパス所在地域を起点として、「地域」を多様な視点でアセスメントすることができる。
 2. 多職種との連携・協働学修を通して、保健師の専門性を探求する。
 3. 公衆衛生看護分野における自己のキャリアを考えることができる。

授業回数	テーマ	内容	担当教員
1～8	山手を知る、地域を診る	1～2：ガイダンス、地域アセスメントとは 山手キャンパス所在地域のタウン・ウォッチング (地区踏査)計画 3～5：地域の理解 (歴史、自然・地理的環境、人々、意識と行動、制度や施設) テーマ、目的に沿ってタウン・ウォッチングを実施 6～8：プレゼンテーション ポスター発表と意見交換	専攻科教員 (2専攻合同)
9	多職種連携・協働と保健師の専門性1	看護の歴史と最新の動向を学び、看護職の専門性について考える。 「看護専門職への期待」 専攻科長 川本利恵子先生	川本
10	多職種連携・協働と保健師の専門性2	「専攻科で学ぶということ」 湘南医療大学大学院 村嶋 幸代	村嶋
11	多職種連携・協働と保健師の専門性3	助産学の視点から母子保健について学び、保健師の専門性について考える。 「母子保健の歴史と展望」 前専攻科長 加藤尚美先生 特別講義	山崎
12・13	疫学と歴史からヒトのもつ能力を考える	日本各地、世界各地の乳幼児および高齢者の排泄に関する研究的・実践的な知見をもとに、対象を診ることの重要性を学ぶ。 「赤ちゃんの排泄を考える」 おむつなし育児研究所所長 和田智代先生	澤井
14・15	地域防災の能動的探究	地域特性と災害の関係を学び、住民の立場での地域防災について参加型学習プログラム	大高
16	地域特性と公衆衛生看護活動	地域特性と社会の動きに応じて行われてきた保健師活動の実際から、地域志向性、異文化理解、連携・協働と多文化共生を理解するとともに、普遍的な保健師の役割、活動について学ぶ。あわせて保健師としてのキャリアについて考える。 横浜市保健師	澤井
17	子育て支援における看護職の役割	特別講演 一般社団法人親と子の支援ゆりかご会 ゆりかご訪問看護ステーション 大場エミ先生	澤井
18	『誰ひとり取り残さない』 社会づくり・地域コミュニティづくり	横浜市を中心として展開されている、地域の人々を巻き込む地域づくりについて学ぶ。 横浜市都市整備局、横浜市社会福祉協議会理事 障害分野NPO連絡会理事、まちづくりコーディネーター 奥井利幸先生	山崎

19・20	妊娠・出産・育児への支援	乳幼児の食生活の特徴と栄養、産後ケア事業	青島
21・22	演習 乳幼児の食	離乳食の調理体験と発表	専攻科教員 (2専攻合同)
23・24・25	地域保健システムと保健師・助産師の役割	母子(親子)保健体系と保健師・助産師の役割 助産学専攻および公衆衛生看護学専攻の学生の学びを共有する。	専攻科教員 (2専攻合同)
26・27・28	地域活動の応用	救急法の基礎(心肺蘇生法、三角巾ほか)、災害時の対応と備え、避難所運営の知識	山崎
29・30	学びの統合、まとめ	「地域」を軸とした学びを統合し、保健師の専門性を整理する。これからの保健師に求められるものと、それぞれのキャリアについて考察する。	山崎・ 澤井・大高

評価	発表・討議 50%、活動への参加状況 30%、提出物 20%
教科書	適宜紹介する
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する
事前・事後学習 留意事項	演習形式で学生が主体的に進行し、グループ形式で学習成果の発表・議論を展開する。 地区踏査等学外での活動、文献・資料学習を含む。 【事前学習】講義に関連する分野について調べる。 【事後学習】配付資料や、参考資料等を復習し、理解を深める。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護学実習Ⅰ	実習	必修	澤井 美奈子・山崎真帆・大高のぶえ
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
4(180)		1	実習開始前に提示する

授業概要

神奈川県内の保健所等行政機関における健福祉事業への参加・見学・実施を通して、公衆衛生看護の理念、対象、活動方法に関わる知識や技術を統合し、公衆衛生看護活動を実践する上での基盤となる能力形成を行う。具体的には、地域診断に基づく健康課題の明確化とPDCAサイクルの展開、個別から地域までの連続した支援と連携・協働、健康危機管理、施策化である。加えて、専門的自立と行政保健師としての使命や責任について考える。

到達目標

【実習目的】

神奈川県内の保健所等の事業や会議に参加・見学し、地域住民の健康な生活の支援から健康危機管理までを目的とする保健所等の組織や制度及び取り組み、地区特性や住民の健康ニーズに対応した保健師活動の展開、行政における保健師の役割や機能について学習する。活動の一部を経験することで、公衆衛生看護活動の基盤となる能力を修得するとともに、社会的公正や倫理について学ぶ。

【実習目標】

- 1) 保健所等の事業の背景を、公的責任を伴った行政支援としての視点で学ぶ。
 - (1) 実習先保健所等の組織と機能について理解する。
 - (2) 管内の地域特性と健康問題に対し、実習先保健所等が行政機関としてどのような保健計画の下で事業を実施しているのかを理解する。
 - (3) 地域保健福祉活動に関する関係法規と事業を連動し、理解を深める。
 - (4) 行政における住民等に対する保健師の責務、社会的公正、倫理について事業への参加を通して理解する。
- 2) 多様な健康レベルの生活者としての視点で対象を捉え、理解を深める。
 - (1) 人々の健康/疾病・障害の予防、発症から改善、回復の過程を社会的条件の中で理解する。
 - (2) 健康レベル、生活背景や価値観の異なる多様な人々への支援の実際を知る。
- 3) 保健師活動の実際を、「個人/家族」「生活基盤としての地区/小地域」「地域の住民組織/地域組織」「地域の制度や仕組みを構築する社会や組織」の4つを対象とする視点で総合的に捉える。
 - (1) 地域で生活する個人/家族への直接的ケアや、セルフケア能力を高めるための支援の方法を理解する。
 - (2) 個別、集団へのアプローチが相互に関連して事業や活動が展開されていることを理解する。
 - (3) 関係職種および関係機関との連携やネットワークが、住民の健康課題を共有化し、総合的な調整を図る機能であることを理解する。
 - (4) 学校・産業保健との連携の実際を理解する。
- 4) 健康危機に関する保健所等の役割と、平時の活動から有事の対応ができるための基本を学ぶ。
 - (1) 災害・感染症・虐待に対する事業や活動の実際と保健師の役割を理解する。
 - (2) リスク・マネジメントやリスク・コミュニケーションの実際を理解する。

進め方
<p>1.実習期間 保健所・市町村オリエンテーション：4月18日、 実習：2024年9月29日(月)～10月24日(金)</p> <p>2.実習施設 神奈川県内保健所・市町村保健センター等</p> <p>3.実習内容・展開</p> <p>1) 事前学習 オリエンテーション、実習目標をたて、実習地域および参加事業の調べ学習などを行う。</p> <p>2) 臨地実習 実習先保健所・保健センター管内の地域アセスメント（地域診断）、各種保健事業への参加、家庭訪問や相談の体験、地区組織活動への参加などを重ね、公衆衛生看護活動について学びを深める。</p> <p>3)カンファレンス・報告会 実習開始時、実習中、終了時にカンファレンスを行い、学びの共有や定着をはかることで学修を深める。</p> <p>4.記録提出 提出期日および提出先は担当教員の指示に従うこと。</p> <p>5.その他 詳細は、公衆衛生看護学実習Ⅰ実習要項を参照すること。</p>

事前・事後学習 留意事項	実習先の保健所等で提供される事業について、十分に事前学習して臨むこと。 実習期間は4週間と長いため、自らの健康管理に十分配慮すること。
-----------------	--

評価	実習要項に示す実習内容、実習記録、レポート等評価区分に基づき評価する
課題に対する フィードバックの方法	臨地施設での教員、実習指導者、関係者による直接指導、記録へのコメント、カンファレンス
教科書	授業で使用した教科書すべて
参考図書 参考WEBページ	授業時配布資料、実習オリエンテーション資料、実習施設内学生実習用貸し出し資料、実習先自治体のHPほか、適宜紹介する
アクティブ・ラーニング	学内演習・グループワークによる演習・ディスカッションと臨地実習での見学、実施体験、評価
実務経験のある 教員による授業	教員は保健師等としての実務経験を活かし、行政における公衆衛生看護活動や多職種との連携、地域をとらえる視点等について実践的な指導をする。
事前・事後学習 留意事項	実習先施設の情報、実習先で参加する事業について関係法規や各種制度等、十分に事前学習して臨むこと。個人情報保護に留意すること。 4週間と長いため、自らの健康管理に十分配慮すること。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
公衆衛生看護学実習Ⅱ	実習	必修	澤井美奈子・山崎真帆・大高のぶえ
単位数（時間数）	授業回数	配当年次	オフィスアワー
2(90)		1	実習開始前に提示する

授業概要
産業、学校、福祉分野ほか多様な公衆衛生看護活動の場の特性について、組織構造、機能、健康に関わる部署や組織、職種とその機能、特徴的な保健師の役割や活動の実際を学ぶ。
到達目標
<ol style="list-style-type: none"> 企業における産業保健の体系と活動の実際、保健師の役割について理解する。 <ol style="list-style-type: none"> 産業保健の体系と産業保健活動の実際を理解する。 企業組織と労働の実際の見学を通して、産業保健における健康課題について考える。 産業保健における保健師の役割について説明できる。 学校教育における保健活動の目的、保健教育・保健管理の実際から養護教諭の役割や業務について理解を深める。 <ol style="list-style-type: none"> 関係法規を含む学校保健の体系と活動の実際を知る。 学校で展開される各種事業や相談、委員会等に参加・見学し、学校保健における健康課題について考える。 養護教諭の役割について説明できる。 地域におけるヘルスケアシステムについて、地域住民と関係機関および健康支援に携わる看護職ほか専門職の役割と、連携・協働し、組織的に活動することの意義を説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> 地域包括支援センターの体制、目的、活動内容について理解する。 各種事業、管轄地区の地域診断、住民との交流をとおして、小地域における健康課題について考える。 地域包括ケアにおける保健師の役割について説明できる。
進め方
<ol style="list-style-type: none"> 実習期間 6月～12月中の10日間 実習施設 事業所、学校、地域包括支援センター、地域の住民活動拠点 実習内容・展開 <ol style="list-style-type: none"> 事前学習 オリエンテーション、実習目標をたて、実習地域および参加事業の調べ学習などを行う。 臨地実習 実習先各種事業への参加、見学や実施を通して、幅広い公衆衛生看護活動の学びを深める。 (注) 実習先の事業計画に沿って実施され、実習日程、実習施設は学生によって異なる。 カンファレンス・報告会 実習開始時、実習中、終了時にカンファレンスや情報交換を行い、学びの共有や定着をはかることで学修を深める。 記録提出 提出期日および提出先は担当教員の指示に従うこと。 その他 詳細は、公衆衛生看護学実習Ⅱ実習要項を参照すること。

評価	実習要項に示す実習内容、実習記録、レポート等評価区分に基づき評価する
課題に対する フィードバックの方法	臨地施設での教員、実習指導者、関係者による直接指導、記録へのコメント、カンファレンス
教科書	授業で使用した教科書すべて
参考図書 参考WEBページ	授業時配布資料、オリエンテーション資料、実習施設ごとの資料、関連HPほか オリエンテーション等でも適宜紹介する
アクティブ・ラーニング	学内演習・グループワークによる演習・ディスカッションと臨地実習での見学、実施体験、評価
実務経験のある 教員による授業	教員は保健師等の実務経験を活かし、地域における公衆衛生看護活動や多職種との連携、学校・産業保健の視点等について実践的な指導をする。
事前・事後学習 留意事項	実習先施設の情報、関係法規や各種制度等について、十分に事前学習して臨むこと。 自らの健康管理に十分配慮すること。 個人情報保護に留意すること。

教育課程表(カリキュラム表)

<助産学専攻>

教育課程表（カリキュラム表）

専攻科助産学専攻

区 分	授業科目	配当 年次	単位数	1単位 当たりの 時間数	履修方法 及び 修了要件
基 礎 助 産 学 領 域	助産学概論	前期	1	15	全単位 必修
	基礎助産学Ⅰ(産科領域)	前期	1	15	
	基礎助産学Ⅱ(小児領域)	前期	1	15	
	ウィメンズヘルス	通年	2	15	
	生殖遺伝学	後期	1	15	
実 践 助 産 学 領 域	助産診断・技術学Ⅰ(妊娠期)	前期	2	30	
	助産診断・技術学Ⅱ(分娩期)	前期	2	30	
	助産診断・技術学Ⅲ(産褥・新生児期)	前期	1	30	
	助産診断・技術学Ⅳ(乳幼児期)	通年	2	15	
	助産診断・技術学Ⅴ(ハイリスク)	通年	1	30	
	健康教育論	通年	1	15	
	助産管理学	通年	1	15	
	地域母子保健論	後期	1	15	
	地域母子保健活動論Ⅰ(地域母子保健サービス)	後期	1	15	
	地域母子保健活動論Ⅱ(専門職との協働・連携)	通年	1	30	
	助産学研究	通年	2	15	
臨 地 実 習	助産学実習Ⅰ(継続)	通年	2	45	
	助産学実習Ⅱ(分娩介助)	通年	8	45	
	助産学実習Ⅲ(地域母子保健)	通年	1	45	
	助産学実習Ⅳ(助産管理)	後期	1	45	
修了要件単位数(最低単位数)					33

シラバス

<助産学専攻>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産学概論	講義	必修	青島 恵美子・加藤 尚美・山崎 圭子 島袋 香子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	前期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
 助産師として求められる基本的な資質・能力（知識・態度・技術）を習得する上で、基礎となる知識及び概念について学ぶ。具体的には、助産師としての責務と裁量、助産ケアの基礎となる概念、助産倫理や生命倫理を学ぶ。また、女性中心のケア、継続したケアの重要性、母子とその家族の生活を支える地域や文化、社会・環境との関連について学び、実践への活用について考察する。

- 到達目標**
- 1) 助産の概念、助産師の定義・役割と責務について理解し、説明できる。
 - 2) 助産に関する諸概念について理解し、説明できる。
 - 3) 助産および助産師の歴史の変遷を理解し、現状の課題を考察できる。
 - 4) エビデンスに基づくケアの概念を理解し、説明できる。
 - 5) 助産師の倫理綱領、生命倫理について理解し、助産における倫理的課題について考察できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 助産の基本概念	助産の定義、助産師の定義、コア・コンピテンシー	加藤
2		助産師の業務と責務	助産師と法律、助産師の業務と責務	青島
3		日本・諸外国の助産および助産師の歴史	日本の助産の変遷、助産と文化、日本・諸外国の母子保健の動向と課題	加藤
4		助産に関する理論・概念①	リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、女性の権利	山崎
5		助産に関する理論・概念②	母性論、母親役割理論、アタッチメント理論、きずな理論、バーナード・モデル	島袋
6		エビデンスに基づく助産ケア	Evidence Based Practice、周産期に関連する主なガイドライン	青島
7		助産と倫理	助産師と倫理、生命倫理	山崎
8		助産の課題と展望	講義を踏まえて、これからの助産の展望について考察し、ディスカッションする。	青島・加藤

評価	講義・課題への取り組み40%、 プレゼンテーション30%、 レポート30%
教科書	助産学講座1 基礎助産学 医学書院 2022年 助産師の声明／コアコンピテンシー 2021 日本助産師会出版 2021年 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会
参考図書 参考WEBページ	基礎助産学 助産学概論 第1巻 日本助産師会出版 2013年 その他、適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
基礎助産学Ⅰ（産科領域）	講義	必修	青島 恵美子・岡垣 竜吾・寺島 朝子 龍崎 桂子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	前期	講義時間の前後

授業概要
 助産ケアを行う上で必要な妊娠による女性の变化や、正常な妊娠・分娩・産褥の経過について学ぶ。具体的な内容としては、妊娠の成立とその維持に関する機序、正常な妊娠・分娩・産褥期の生理、妊娠と栄養、周産期に必要な薬理学の基礎的な知識について学ぶ。

到達目標
 1) 女性性器の構造と機能を理解し、説明できる。
 2) 妊娠の成立の機序および妊娠の維持機能を理解し、説明できる。
 3) 妊娠に伴う母体の变化、産褥期の生理的变化を理解し、説明できる。
 4) 分娩の機序を理解し、説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		性と生殖に関する解剖・生理	内性器・外性器、骨盤の構造、性周期	岡垣
2		妊娠の成立	性周期、女性ホルモン動態、妊娠の成立、受精、受胎	岡垣・青島
3		妊娠に伴う母体の变化	生殖器の変化、全身の変化、免疫能の変化	岡垣
4		胎児の発育と胎児付属物	胎児付属物の構造と機能、胎児期における臓器の成熟	岡垣
5		母子感染	感染経路と経過、母子感染の予防と治療	岡垣
6		分娩の基礎	分娩の3要素、分娩に関する定義、正常分娩、分娩様式	岡垣
7		妊娠と栄養	母体の栄養と健康、母胎の栄養と胎児の健康	龍崎
8		妊娠・分娩・産褥と薬物	薬物の母子への影響、授乳期の薬物摂取と影響	寺島

評価	筆記試験100%
教科書	助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院 2021年 助産学講座3 母子の健康科学 医学書院 2023年 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期 医学書院 2021年 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 2021年
参考図書 参考WEBページ	馬場一憲（編）「目で見る妊娠と出産」文光堂 2013 医療情報科学研究所 「病気がみえる vol.10」産科 第4版 メディックメディア 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」 日本産科婦人科学会事務局 2023年 その他、適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
基礎助産学Ⅱ（小児領域）	講義	必修	今野 和穂・青島 恵美子 西崎 直人・生駒 直寛
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	前期	講義時間の前後

授業概要
小児科領域のケアを行う上で必要な新生児の成長・発達、新生児の胎外生活への適応過程について学ぶ。具体的な内容としては、成長・発達、新生児の胎外生活適応の過程、妊娠・分娩・新生児期で正常を逸脱した異常の病態生理・治療について学ぶ。

到達目標
1) 新生児期に応じた成長と発達の特徴を理解し、説明できる。
2) 新生児の胎外生活の適応過程を理解し、説明できる。
3) 新生児に起こりやすい疾患の病態・治療を理解し、説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		新生児の適応生理、成長・発達	呼吸器・循環器系の適応、体温の調節、肝機能の適応	西崎
2		新生児の適応生理、成長・発達	消化器系の適応、水分・電解質バランスと腎機能の適応、免疫系の適応、行動と感覚器の適応	西崎
3		正常経過逸脱状態にある新生児の診断	呼吸障害、チアノーゼ、嘔吐と腹部膨満、吐血・下血、痙攣、麻痺、発熱と低体温、心雑音、何となく元気がない	西崎
4		新生児の疾患と治療①	呼吸管理、光線療法、経管栄養、輸液管理	生駒
5		新生児の疾患と治療②	呼吸障害を起こす疾患、先天性心疾患、血液疾患、病的黄疸、外表奇形他	生駒
6		新生児の疾患と治療③	染色体異常、感染症、免疫疾患、中枢神経他	生駒
7		新生児の疾患と治療④	低出生体重児と早産時の特徴、低出生体重児に起こりやすい合併症、NICUでの管理	生駒
8		出生直後の新生児の評価	NCPR Aコース	今野・青島

評価	筆記試験100%
教科書	助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 医学書院 2021年 仁志田博司 新生児学入門 医学書院 2024年 日本版救急蘇生ガイドライン2020に基づく新生児蘇生法テキスト第4版 メジカルビュー社 2021年
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
ウィメンズヘルス	講義	必修	今野 和穂・青島 恵美子・山崎 圭子 横山 顕子・富井 悦子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
 女性の生涯を通じた健康課題とその健康支援に向けて、ウィメンズヘルスやリプロダクティブヘルスに関する基本概念、世界および日本の歴史・動向、社会背景や政策について理解を深め、これからの助産師のあり方や助産ケアについて考える。具体的な内容としては、思春期、成熟期、更年期・老年期の女性の健康問題とその支援、性感染症とその予防への支援、月経障害を持つ女性への支援、勤労女性への支援、不妊の悩みを持つ女性・家族への支援（男性不妊も含む）、女性特有の悪性疾患とその予防への支援について学ぶ。また、女性に対する暴力・子ども虐待に対する感受性を高めるとともに、医師やその他の専門職者との連携の下に適切な援助を行うための基礎的知識を学ぶ。

- 到達目標**
- 1) リプロダクティブヘルス/ライツの概念を理解し、説明できる。
 - 2) ウィメンズヘルスに関する理論や概念を理解し、説明できる。
 - 3) 家族計画の目的、各受胎調節法について理解し、説明できる。
 - 4) ライフステージにおける主な健康課題と健康に影響する背景について理解し、健康への支援について考察できる。
 - 5) 女性に対する暴力や子ども虐待への支援において、他職種連携の必要性や方法について説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 助産師に求められるWHC能力	ウィメンズヘルスとは、助産師のWHC能力	今野
2		W.H.やR.H.に関する理論・概念①	セクシュアリティ、リプロダクティブヘルス/ライツ	今野
3		W.H.やR.H.に関する理論・概念②	ストレスコーピング理論、セルフエフィカシー、エンパワーメント	今野
4		プレコンセプションケア	プレコンセプションケアの概念、人工妊娠中絶の現状と母体に及ぼす影響、性感染症の病態・治療	今野
5		家族計画と受胎調節法①	家族計画、母体保護法と受胎調節の意義	青島
6		家族計画と受胎調節法②	受胎調節の基礎	青島
7		家族計画と受胎調節法③	避妊法各論	青島
8		家族計画と受胎調節法④	家族計画指導案、発表	青島・今野 富井
9		不妊症と生殖医療	不妊症の原因・病態・治療、生殖補助医療、生殖医療民法特例法	山崎
10		ライフステージにおける健康課題とケア①	思春期	今野
11		ライフステージにおける健康課題とケア②	成熟期（悪性腫瘍など）	今野
12		ライフステージにおける健康課題とケア③	更年期・老年期	今野
13		多様化する家族・性暴力への支援	性同一性障害、SOGI (LGBT)、DV、女性と労働	青島
14		未病と東洋医学	東洋医学とは、冷え性、更年期障害	横山
15		まとめ	講義を踏まえて、女性の健康への支援についての展望について考察し、ディスカッションする。	今野

評価	講義・課題への取り組み40%、プレゼンテーション30%、レポート30%
教科書	助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院 2021年 助産学講座3 母子の健康科学 医学書院 2023年 助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 2023年 助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ医学書院 2021年
参考図書 参考WEBページ	編集 荒田尚子他 「プレコンセプションケア」 メジカルビュー社 その他、適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
生殖遺伝学	講義	必修	青島 恵美子・山崎 圭子・竹下 直樹
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	後期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
 生殖遺伝学の基礎知識を学び、出生前診断、遺伝カウンセリングのあり方、遺伝に関する諸課題について、助産師としてどのように捉え、どのような支援が必要かを考える。

- 到達目標**
- 1) 遺伝性疾患、出生前診断について理解し、説明できる。
 - 2) 家系図の基本的知識を学び、作図することができる。
 - 3) 遺伝カウンセリングの方法について理解し、説明できる。
 - 4) 出生前診断を受検しようとするカップルへの支援について、助産師としての支援について考えを述べるができる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		遺伝医学	遺伝医学の歴史と医療、染色体の異常による疾患と検査、遺伝子と遺伝子解析法	竹下
2		遺伝性疾患	常染色体遺伝とその異常、非メンデル遺伝病	竹下
3		出生前診断	出生前診断の概念・目的・倫理、非確定検査、確定検査	竹下
4		遺伝性疾患における倫理的課題	ゲノム研究、倫理的問題	竹下
5		遺伝カウンセリングが必要な妊産褥婦へのかかわり①	病歴の聴取、家系図の作成、胎児の出生前診断・検査の説明、両親が決定しなければいけない事項と選択肢の提示	山崎
6		遺伝カウンセリングが必要な妊産褥婦へのかかわり②	カウンセリングの方法、意思決定支援	山崎
7		遺伝カウンセリングが必要な妊産褥婦へのかかわり③	先天異常の子どもを持つカップルへの次の妊娠への支援	山崎
8		まとめ	講義を踏まえて、出生前診断を受検しようとするカップルへの支援についてディスカッションする。	青島

評価	講義への取り組み30%、レポート70%
教科書	助産学講座2 母子の基礎科学 医学書院 2021年
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産診断・技術学Ⅰ（妊娠期）	講義・演習	必修	今野 和穂・青島 恵美子・富井 悦子 小林 藍子・金井 雄二
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（60時間）	30回	前期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
 妊娠に伴う母体の変化および胎児の成長・発達を理解し、妊婦が心身ともに妊娠に適応し、快適な生活を送るための基礎知識とその支援方法を学ぶ。具体的な内容としては、妊婦と胎児の状態を把握するための助産診断技術を基に助産診断を行い、妊婦と家族の心理・社会的変化の診断、ローリスク妊婦と家族へのケア、ハイリスク移行因子が高い妊婦への予防と管理の助産ケアを学ぶ。

- 到達目標**
- 1) 助産診断の意義、定義、類型、臨床推論について説明できる。
 - 2) 妊娠期の助産診断に必要な診断技術を理解し、説明できる。
 - 3) 妊娠期の助産過程が展開できる。
 - 4) 妊婦およびその家族に対して、助産診断に基づいた保健指導が実施できる。
 - 5) 妊婦健康診査における診察方法について説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 助産診断・技術学の概要	助産診断・助産技術学の概要と定義、臨床推論	今野
2		助産診断と助産過程の概要	助産診断類型、助産診断の分類、助産過程 妊娠確定の診断、分娩予定日の算定	今野
3		助産過程・助産診断・助産ケアの概 要と実際	助産過程・助産ケアの概要と関連する諸理論	今野
4		妊娠初期の助産診断と技術	初診時の情報収集とフィジカルアセスメント	今野
5		妊娠初期の助産診断とケア	妊娠の受容と妊娠継続、セルフケアや母子保健サー ビスの利用	今野
6		妊娠経過の診断とケア 妊娠初期①	妊娠初期の妊婦への妊婦健康診査、助産診断とケア	今野
7		妊娠経過の診断とケア 妊娠初期②	妊娠初期の妊婦への妊婦健康診査、助産診断とケア	今野
8		妊娠経過の診断とケア 妊娠中期①	妊娠中期の妊婦への妊婦健康診査、助産診断とケア	今野
9		妊娠経過の診断とケア 妊娠中期②	妊娠中期の妊婦への妊婦健康診査、助産診断とケア	今野
10		妊娠経過の診断とケア 妊娠末期①	妊娠末期の妊婦への妊婦健康診査、助産診断とケア	今野
11		妊娠経過の診断とケア 妊娠末期②	妊娠末期の妊婦への妊婦健康診査、助産診断とケア	今野
12		心理・社会的支援	心理面への支援、新しい家族形成への支援、社会的 資源の活用	今野
13		妊娠期の助産診断技術①（演習）	妊婦に対する診察技術（全身観察、レオポルド触診 法、計測法、内診、モニター装着他）	富井・今野 青島
14		妊娠期の助産診断技術②（演習）	妊婦に対する診察技術（全身観察、レオポルド触診 法、計測法、内診、モニター装着他）	富井・今野 青島
15		妊娠期の助産診断技術③（演習）	妊婦に対する診察技術（全身観察、レオポルド触診 法、計測法、内診、モニター装着他）	富井・今野 青島
16		周産期に用いられる検査法	機器の原理と装着法、超音波診断法他	金井
17		胎児心拍数陣痛図	胎児心拍数モニタリング判読	小林
18		妊娠期の助産過程の展開①	事例の助産診断と助産計画の立案	今野
19		妊娠期の助産過程の展開②	事例の助産診断と助産計画の立案	今野

20		妊娠期の助産過程の展開③	事例の助産診断と助産計画の立案	今野
21		妊娠期の助産過程の展開④	事例の助産診断と助産計画の立案	今野
22		保健指導の実際①	事例の助産診断と助産計画に基づいた保健指導	今野
23		保健指導の実際②	事例の助産診断と助産計画に基づいた保健指導	今野
24		保健指導の実際③	事例の助産診断と助産計画に基づいた保健指導	今野
25		保健指導の実際④	事例の助産診断と助産計画に基づいた保健指導	今野
26		妊婦健診O S C E（妊娠中期）	妊娠中期の事例への妊婦健診	今野・青島 富井
27		妊婦健診O S C E（妊娠中期）	妊娠中期の事例への妊婦健診	今野・青島 富井
28		妊婦健診O S C E（妊娠末期）	妊娠末期の事例への妊婦健診	今野・青島 富井
29		妊婦健診O S C E（妊娠末期）	妊娠末期の事例への妊婦健診	今野・青島 富井
30		まとめ	講義を踏まえて、妊婦に対する助産師の関わりについてグループディスカッションを行う。	今野
評価		講義・演習・グループワークへの取り組み50%、 課題・レポート50%		
教科書		助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ [1]妊娠期 医学書院 2021年		
参考図書 参考WEBページ		日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」日本産科婦人科学会事務局 2023年 日本助産診断実践学会「マタニティ診断ガイドブック 第6版」医学書院 2020年 日本助産診断実践学会「実践マタニティ診断 第5版」医学書院 2021年 馬場一憲（編）「目でみる妊娠と出産」 文光堂 2013 その他、適宜紹介する。		
事前・事後学習 留意事項		本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。		

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産診断・技術学Ⅱ（分娩期）	講義・演習	必修	青島 恵美子・今野 和穂・富井 悦子 小林 藍子・金井 雄二・四戸 千春 加藤 愛純・絹川 朋美
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（60時間）	30回	前期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要

安全で満足のいく分娩体験を得られるように分娩経過を診断し、女性の持つ力を発揮できるように支援するための基本的知識や支援方法を学ぶ。具体的な内容としては、分娩に係る解剖生理、分娩の3要素、分娩の経過、分娩中のケア（産痛緩和他）、胎児心拍数陣痛図の判読、分娩促進、麻酔分娩などのケアである。また、科目での学びを統合し、分娩期の助産診断を高めるために事例検討を行う。

到達目標

- 1) 分娩の機序を理解し、説明できる。
- 2) 分娩期に必要な情報を収集し、助産診断ができる。
- 3) 分娩介助技術の原理を理解し、原理原則に基づいて実施できる。
- 4) 分娩期に必要な産痛緩和技術や呼吸法などのケア方法を理解し、実施できる。
- 5) 分娩時の異常や産科救急の処置について理解し、説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		分娩の定義、分娩の3要素	分娩3要素について（娩出力・娩出物・産道） 分娩期の心理社会的状況	青島
2		分娩の機序①	胎児の分娩機転・分娩が母児に与える影響	青島
3		分娩の機序②	分娩の機序 分娩第1期～第4期	青島
4		分娩経過の診断①	助産師の役割、分娩の経過診断 産婦と胎児の健康 診査	青島
5		分娩経過の診断②	分娩期の助産過程 経過診断	青島
6		助産診断とケア	入院時・分娩第1期の助産診断・ケア	青島
7		助産診断とケア	入院時のアセスメント、初期診断、初期計画の立案	青島
8		助産診断とケア	分娩第2期～4期の助産診断・ケア 事例提示	青島
9		助産診断とケア	分娩介助技術（講義）分娩介助の意義 分娩介助の 基本姿勢、分娩室の環境調整、分娩介助者の準備	青島
10		分娩の異常①	分娩の3要素の異常1娩出力の異常（微弱陣痛、過強 陣痛、産道の異常:CPD、狭骨盤、軟産道強靱）娩出 物の異常:胎位・胎向の異常、進入・回旋の異常、 胎位形態の異常）	小林
11		分娩の異常②	分娩の3要素の異常2胎児付属物の異常（破水時期の 異常、羊水の異常、胎盤娩出の異常:嵌頓、癒着胎 盤、臍帯の異常）	小林
12		会陰裂傷縫合術	会陰切開、会陰縫合術	小林
13		無痛・和痛分娩	無痛・和痛分娩（硬膜外麻酔、陰部神経ブロックな ど）	金井
14		無痛・和痛分娩での助産ケア	無痛・和痛分娩（硬膜外麻酔、陰部神経ブロックな ど）における分娩期のケア	絹川
15		事例検討①	正常な経過の事例	青島

16		事例検討②	正常な経過の事例	青島
17		事例検討③	誘発促進事例、微弱陣痛事例	青島
18		事例検討④	破水・発熱事例	青島
19		分娩介助技術①（演習）	分娩の準備 分娩室の環境調整、分娩介助者の準備、清潔野の作成	青島
20		分娩介助技術②（演習）	分娩介助（仰臥位分娩）肛門保護、会陰保護、躯幹娩出、出生直後の新生児ケア、臍帯切断、胎盤娩出	青島
21		分娩介助技術③（演習）	分娩介助 デモンストレーション	今野・青島 富井
22		分娩介助技術④（演習）	分娩第1期のケア シナリオ事例	今野・青島 富井
23		分娩介助技術⑤（演習）	分娩介助（フリースタイル分娩）	四戸・加藤
24		分娩期に必要な技術①（演習）	産痛緩和・呼吸法・リラクゼーション・温罨法	今野・青島 富井
25		分娩期に必要な技術②（演習）	分娩介助に必要な技術（内診、人工破膜、導尿、胎盤精査）	今野・青島 富井
26		分娩期に必要な技術③（演習）	分娩介助に必要な技術（内診、人工破膜、導尿、胎盤精査）	今野・青島 富井
27		分娩期に必要な技術④（演習）	分娩介助に必要な技術 第4期のケア（早期母子接触、清拭、更衣、初回歩行）	今野・青島 富井
28		分娩期に必要な技術⑤（演習）	間接介助、バースレビュー	青島、富井
29		分娩介助技術評価	分娩介助技術の評価	今野・青島 富井
30		分娩介助技術評価	分娩介助技術の評価	今野・青島 富井
評価		講義・課題への取り組み30% プレゼンテーション30% レポート30% 分娩技術評価10%		
教科書		助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 2021年		
参考図書 参考WEBページ		町浦美智子「助産学実習プレブッカー助産過程の思考プロセス」医歯薬出版株式会社 2015年 日本助産診断実践研究会「実践 マタニティ診断 第5版」医学書院 2021年 日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」 日本産科婦人科学会事務局 2023年 「WHO推奨ポジティブな出産体験のための分娩期のケア」医学書院 2021年 馬場一憲(編)「目でみる妊娠と出産」文光堂 2013 その他、適宜紹介する。		
事前・事後学習 留意事項		本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。		

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産診断・技術学Ⅲ (産褥・新生児期)	講義・演習	必修	今野 和穂・青島 恵美子 富井 悦子
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位(30時間)	15回	前期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要

褥婦の身体的、心理社会的変化、新生児の生理的变化を理解し、褥婦及び新生児の健康状態を診断するための健康診査技術や母乳育児支援を学ぶ。また、正常からの逸脱の診断とその予防にむけた助産ケアや処置について学ぶ。

到達目標

- 1) 褥婦の身体的、心理的、社会的変化を理解し、助産過程を展開できる。
- 2) 褥婦とその家族に対して、助産診断に基づいた保健指導ができる。
- 3) 新生児の適応生理と成長・発達の特徴について説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 産褥期の生理	産褥期の全身の変化と特徴、産褥期の局所的な変化と特徴	今野
2		産褥期の心理・社会的変化	産褥期の心理・社会的変化	今野
3		産褥期の助産診断	産褥期のアセスメント	今野
4		産褥期のケア①	産褥期のフィジカルアセスメントとケア(産後7日まで) パースレビュー、退院後の生活に向けたケア	今野
5		産褥期のケア②	産褥期のフィジカルアセスメントとケア(産後7日以降)	今野
6		母乳育児支援 ①	乳房管理(解剖・生理)、授乳への支援	今野
7		母乳育児支援 ②	授乳への支援	今野
8		新生児期のケア①	出生後24時間以内の新生児のアセスメントとケア	今野
9		新生児期のケア②	早期新生児のアセスメントとケア	今野
10		産褥期と新生児期のケア(演習)①	産褥期・新生児期に必要な助産技術(褥婦の退行性変化、進行性変化、全身状態の観察)	今野・青島 富井
11		産褥期と新生児期のケア(演習)②	産褥期・新生児期に必要な助産技術(新生児のバイタルサイン、全身状態の観察、計測、沐浴)	今野・青島 富井
12		事例検討①	初産婦と新生児の事例	今野・青島 富井
13		事例検討②	初産婦と新生児の事例	今野・青島 富井
14		産後の保健指導	退院指導 指導案・媒体	今野・青島 富井
15		まとめ	講義を踏まえて、退院後の生活を見据えた産褥期・新生児期の支援についてグループディスカッションを行う。	今野

評価	講義・演習への取り組み50%、 課題・レポート50%
教科書	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 2021年 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 医学書院・2021年
参考図書 参考WEBページ	日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」 日本産科婦人科学会事務局 2023年 その他、適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産診断・技術学Ⅳ（乳幼児期）	講義	必修	青島 恵美子・小林 尚明・豊島 万希子 今野 和穂・富井 悦子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
乳幼児の身体的・心理的・社会的状態の正常・異常が判断でき、母子とその家族の健康増進を支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。具体的な内容としては、乳幼児の成長・発達、予防接種の概要、主な疾患とケア、乳幼児におこりやすい事故とその予防などである。

- 到達目標**
- 1) 乳幼児の成長・発達について説明できる。
 - 2) 乳幼児の健康診査の意義、時期、内容について説明できる。
 - 3) 乳幼児の成長発達を促進するケアについて説明できる。
 - 4) 乳幼児の主な疾患の病態・診断・治療について説明できる。
 - 5) 予防接種のワクチンと対象疾患、接種時期、条件・回数について説明できる。
 - 6) 乳幼児に起こりやすい事故とその予防対策について説明できる。
 - 7) 子ども虐待の現状を理解し、子ども虐待への対応について説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		乳幼児の成長・発達	乳幼児の身体的成長・発達、心理・社会的発達 乳幼児の健康診査の意義、成長・発達の評価	青島
2		乳幼児の主な疾患の病態と治療①	感染症（突発性発疹、RSウイルス、カンジダ症、鷲口瘡他）	小林
3		乳幼児の主な疾患の病態と治療②	アレルギー疾患、乳幼児突然死症候群、被虐待児症候群他	小林
4		予防接種	感染症対策としての位置づけ、予防接種法、定期予防接種、各対象疾患とワクチンの実施上の留意点	小林
5		乳幼児の事故と予防	窒息、溺死・溺水、転倒・転落、誤飲、交通事故他	小林
6		子ども虐待とその対応	子ども虐待の現状 児童虐待防止法 子ども虐待予防	今野
7		乳幼児を持つ母親の支援	育児期にある母親への支援	青島
8		乳幼児の栄養とケア①	乳幼児の食生活の特徴と栄養	青島
9		乳幼児の栄養とケア②	離乳食について	青島・今野 富井
10		乳幼児の成長発達とケア①	乳幼児のアセスメントとケア、退院から生後4か月まで	青島
11		乳幼児の成長発達とケア②	生後4か月のアセスメントとケア	青島・富井
12		乳幼児の成長発達とケア③	生後4か月のアセスメントとケア	青島・富井
13		乳幼児の成長発達とケア④	生後5か月～12か月まで	青島
14		乳幼児の成長発達とケア⑤	低出生体重児、早産児のアセスメントとケア	豊島
15		まとめ	講義を踏まえて乳幼児期の子どもをもつ母子の支援についてグループワークを行い、発表する	青島

評価 講義・課題への取り組み30%、 プレゼンテーション40%、 レポート30%

教科書 助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 2023年
助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児・乳幼児期 医学書院 2021年
助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 2023年

参考図書 参考WEBページ	助産師基礎教育テキスト第6巻 日本看護協会出版会 2023年 福岡地区小児科医会 乳幼児保健委員会 「乳幼児健診マニュアル第5版」医学書院 2015年 その他、適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産診断・技術学Ⅴ（ハイリスク）	講義	必修	今野 和穂・山崎 圭子 小林 藍子・倉田 慶子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（30時間）	15回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
ハイリスク妊娠・分娩・産褥・新生児の助産診断およびケアに必要な基礎的知識を学び、正常な経過からの逸脱を診断し、医療介入を要する妊産婦、新生児に対する異常時のケアについて考える。

到達目標
1) ハイリスク妊産婦の病態、検査、治療について説明できる。
2) ハイリスク妊産婦へのケアについて説明できる。
3) 心理・社会的なハイリスク妊産婦のケアについて説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		ハイリスク妊娠の診断①	妊娠悪阻、流・早産、妊娠貧血、若年妊娠、高年妊娠、HDP、GDM、前置胎盤、多胎、FGR	小林
2		ハイリスク妊娠の診断②	心疾患合併妊娠、甲状腺疾患合併妊娠、呼吸器系疾患合併妊娠、腎・泌尿器疾患合併妊娠、自己免疫疾患合併妊娠	小林
3		ハイリスク分娩の診断①	分娩に伴う偶発疾患・合併症1（常位胎盤早期剥離、胎児機能不全、羊水塞栓症、子宮内反、子宮破裂）	小林
4		ハイリスク分娩の診断②	分娩に伴う偶発疾患・合併症2（絨毛膜羊膜炎、子癇発作、HDP・心疾患・糖代謝異常合併妊娠等の分娩管理）	小林
5		ハイリスク分娩の診断③	産科異常出血、DIC、産科ショック、産科的医療処置、胎盤用手剥離術、双合子宮圧迫法、IUFD、多胎分娩	小林
6		産科手術および産科的医療処置	帝王切開（術前検査、産婦の準備、麻酔前投薬、帝王切開術）、骨盤位検出術、器械的急速娩出術（鉗子・吸引、クリステレル）	小林
7		周産期で用いる薬剤と管理	分娩誘発・陣痛促進、感染症（GBS、HBV、HBC）	小林
8		ハイリスク妊産婦へのケア①	ハイリスク妊産婦へのケア（切迫早産、前期破水、HDP、GDM、前置胎盤、常位胎盤早期剥離）	今野
9		ハイリスク妊産婦へのケア②	ハイリスク妊産婦へのケア（多胎、骨盤位、羊水過少・過多、FGR、過期妊娠、TOLAC、分娩時異常出血）	今野
10		ハイリスク妊産婦へのケア③	ハイリスク妊産婦へのケア（帝王切開術、ペリネイタルロス）	今野
11		産褥期のハイリスクの診断	子宮復古不全、頸管・腔・会陰裂傷、外陰血腫、脱肛	小林
12		産褥期のハイリスクの診断とケア	乳房トラブルとケア、母乳不足感とケア	今野
13		ハイリスクにある妊産婦とその家族の助産診断とケア	周産期のメンタルヘルスとケア、産後うつ病	山崎
14		心理・社会的ハイリスクにある妊産婦とその家族の助産診断とケア	障がい児や予後不良児を育てる親へのケア、子どもを亡くした親へのケア	倉田

15		まとめ	講義を踏まえて、ハイリスク妊産褥婦、ハイリスク新生児に対する助産師のかかわりについて、ディスカッションする	今野
評価		講義・課題への取り組み10%、レポート20%、筆記試験70%		
教科書		助産学講座4 母子の心理・社会学 医学書院 2023年 助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 2021年 助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ [3]新生児期・乳幼児期 医学書院・2021年		
参考図書 参考WEBページ		日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会編集「産婦人科診療ガイドライン産科編2023」 日本産科婦人科学会事務局 2023年 その他、適宜紹介する。		
事前・事後学習 留意事項		本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。		

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
健康教育論	講義	必修	今野 和穂・青島 恵美子 山崎 真帆・富井 悦子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要 対象者が自己の健康行動をより良い方向に変容できるよう、健康教育に関する基礎的知識や理論を理解し、健康教育の企画・運営・評価を行う。具体的には、両親学級や育児サロン、プレコンセプションケアなどを企画し、運営・評価まで一連の指導過程を試行する。				
到達目標 1) 健康教育と保健行動について、説明できる。 2) 健康教育の方法について理解し、説明できる。 3) 健康教育で用いる理論について理解し、説明できる。 4) 健康教育の企画書および指導案を作成できる。 5) 健康教育の指導案にそって実施し、評価できる。				
授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 健康教育の概念	健康教育の概念、健康教育と保健行動	今野
2		健康教育の方法と対象理解 健康教育で用いる理論	健康教育の実施方法、健康教育の対象理解、健康信念モデル、トランスセオティカルモデル、計画的行動理論、自己効力感、社会的学習理論（バンデューラ）	今野
3		健康教育の企画書と指導案の作成①	健康教育に必要な技術、教育媒体（教材）について	山崎
4		健康教育の企画書と指導案の作成②	テーマごとに分かれ、健康教育の企画書と指導案を作成する	今野
5		健康教育の企画書と指導案の作成③	テーマごとに分かれ、健康教育の企画書と指導案を作成する	今野
6		健康教育の企画書と指導案の作成④	媒体作成・リハーサルを実施する	今野・青島 富井
7		健康教育の実際①	健康教育を対象に実施する	今野・青島 富井
8		健康教育の実際②	リフレクション・まとめ	今野・青島 富井
評価		講義・課題への取り組み40%、 プレゼンテーション30%、 企画書・指導案30%		
教科書		助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ医学書院 2021年		
参考図書 参考WEBページ		適宜紹介する。		
事前・事後学習 留意事項		本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。		

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産管理学	講義	必修	青島 恵美子・加藤 尚美・布施 明美・岡本 登美子・富井 悦子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
 病院・診療所、助産所における助産管理、周産期医療体制、周産期における医療安全対策について学び、安全で安心な助産ケアを提供するための助産管理の基本と助産ケアの質保証について理解を深める。また、助産に関連した医療政策、災害対策・支援活動について学ぶ。

- 到達目標**
- 1) 助産管理の基本概念、助産業務管理の課程、助産管理の方法が説明できる。
 - 2) 助産ケアが提供される場に応じた助産管理の特徴が説明できる。
 - 3) 助産所の開業、運営・管理について説明できる。
 - 4) 平時の災害への備え、災害時の支援について説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 助産管理の基本概念	助産管理の助産管理の特性、助産業務管理の過程	加藤
2		助産管理に関する法規	保健師助産師看護師法、医療法、刑法、労働基準法、育児・介護休業法、男女雇用機会均等法、母体保護法及び医薬品・医療機器等の品質・有効性及び安全性の確保等に関する法律の解説	青島
3		病院における助産管理	助産ケアの質保証、助産管理と経営、産科病棟の管理、院内助産・助産師外来	布施
4		助産所における助産管理	助産所の開業、助産所の管理・運営	岡本
5		助産所における助産管理 周産期医療体制、チーム医療	助産所の業務管理、地域活動、周産期管理システム、地域連携、助産所開設	青島
6		災害対策と支援活動	平時の災害への備え、災害時の管理、母子への災害支援、避難所におけるケア	青島・富井
7		助産師の人材育成	助産師の人材育成、継続教育、キャリア開発、クロックミップ	加藤
8		まとめ	病院と助産所の助産管理の特徴を踏まえ、切れ目ない妊娠・出産・育児期の支援を実現するための助産所のあり方について、ディスカッション、発表する	青島・加藤

評価	講義・課題への取り組み20%、筆記試験60%、プレゼンテーション20%
教科書	助産学講座10 助産管理 医学書院 2022年
参考図書 参考WEBページ	助産業務ガイドライン 2024 日本助産師会出版 その他、適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域母子保健論	講義	必修	今野 和穂・山浦 直子
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位（15時間）	8回	後期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
地域母子保健の必要性および母子保健行政を理解し、母子保健における助産師の役割と母子およびその家族への支援の方法について学ぶ。また、諸外国の母子保健の現状と課題を学び、母子保健政策を推進するための助産師の役割について考える。

- 到達目標**
- 1) 母子保健の意義および地域母子保健の概念を説明できる。
 - 2) 日本の母子保健統計の特徴について説明できる。
 - 3) 日本の母子保健の動向を理解し、現状と課題について述べる事ができる。
 - 4) 在日外国人への母子保健活動の課題を理解し、支援のあり方について考察し、述べる事ができる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 地域母子保健の基本 母子保健の動向	母子保健の意義、地域母子保健の概念、 母子保健統計	今野
2		母子保健行政の体系	母子保健行政のしくみ、母子保健に関わる制度 母子保健施策、母子保健に関する法律（母子保健法）	今野
3		地域母子保健活動の基盤	母子保健活動における連携・協働 助産師の役割と活動	今野
4		日本の母子保健の現状と課題	現状分析とプレゼンテーション	今野
5		在日外国人への母子保健活動	在日外国人への支援	今野
6		日本と諸外国の母子保健政策の検討	諸外国の母子保健・医療・福祉に関連する施策	今野
7		母子保健活動の実際	神奈川県内の助産師による母子保健活動の実際	今野・山浦
8		まとめ	地域で生活する母子とその家族への健康支援のあり方 について考察し、ディスカッションする。	今野

評価	講義・課題への取り組み20%、プレゼンテーション20%、筆記試験60%
教科書	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 2023年 厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2024/2025 厚生労働統計協会
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域母子保健活動論Ⅰ (地域母子保健サービス)	講義	必修	青島 恵美子・富井 悦子
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位(15時間)	8回	後期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要
 周産期におけるメンタルヘルスや子ども虐待予防等に対応するために、地域で生活する妊産婦およびその家族をアセスメントする能力を育み、保健・医療・福祉関係者と連携しながら、妊娠・出産・育児期の切れ目ない母子保健サービスを提供するための方略について学ぶ。

到達目標
 1) 日本の子育て支援システムの現状と課題について説明できる。
 2) 地区踏査を基に、地区診断ができる。
 3) 家庭訪問の計画を立案し、ロールプレイを介して評価できる。
 4) 妊娠から育児期までの切れ目のない母子保健サービスを提供するための方略について考察し述べることができる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		オリエンテーション 子育てシステム	子育て支援システム	青島
2		地域における助産師の支援	地域の助産師の活動(学会参加)	青島
3		子育て支援①	育児支援技術	富井・青島
4		子育て支援②	子育て世代の視点で地区踏査を行う	富井・青島
5		家庭訪問の計画立案	事例にそった家庭訪問の計画立案	青島
6		家庭訪問演習	指導計画を踏まえたロールプレイの評価	青島
7		産後ケア事業	産後ケア事業における助産師のケア	青島
8		まとめ	妊娠から育児期までの切れ目のない母子保健サービスを提供するための方略について検討する。	青島

評価	講義・課題への取り組み30%、 レポート70%
教科書	助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 医学書院 2023年
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
地域母子保健活動論Ⅱ (専門職との協働・連携)	演習	必修	青島 恵美子・川本 利恵子・村嶋 幸代・加藤 尚美 今野 和穂・澤井 美奈子・山崎 真帆・大高 のぶえ 富井悦子・和田 智代・門 敦之
単位数(時間数)	授業回数	配当時期	オフィスアワー
1単位(30時間)	15回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要

専攻科の所在する地域を拠点として、地域志向性、異文化理解、連携・協働と多文化共生をキーワードに、地域特性や地域資源、地域に暮らす人や組織について主体的、能動的に探求する。講義と演習を通して複眼的に助産の専門性、可能性を見つめ、高度専門職業人としての自己キャリアについて考える。

- 到達目標**
- 1) 地域母子保健の観点から、地域特性や社会資源、地域で生活する対象者の特性を説明できる。
 - 2) 助産師の支援の実際から専門性について考察できる。
 - 3) 地区踏査を基に、地区診断ができる。
 - 4) 大学周辺の地域で行われている母子保健活動について説明できる。
 - 5) 助産師と多職種との連携について説明できる。

授業回数	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		地区踏査と地区診断①	公衆衛生看護学の学生と横浜市中区の地区踏査	川本・村嶋 青島・澤井 今野・山崎 大高・富井
2		地区踏査と地区診断②		
3		地区踏査と地区診断③		
4		地区踏査と地区診断④		
5		地区踏査と地区診断⑤		
6		地区踏査と地区診断⑥		
7		地区踏査と地区診断⑦		
8		地区踏査と地区診断⑧		
9		保健医療分野の国際協力	公衆衛生に関する国際的な活動	門・山崎
10		特別講義	専攻科で学ぶということ	村嶋
11		特別講義	赤ちゃんの排泄を考える	和田
12		特別講義	看護専門職への期待(仮)	川本
13		特別講義	助産師としてのキャリアプラン	加藤
14		合同報告会	母子(親子)保健体系と保健師・助産師の役割 助産学専攻および公衆衛生看護学専攻の学生の学びを共有する。	川本・村嶋 青島・澤井 今野・山崎 大高・富井
15		合同報告会		

評価	講義・演習・課題への取り組み20%、プレゼンテーション30%、レポート50%
教科書	必要時提示する。
参考図書 参考WEBページ	必要時提示する。
事前・事後学習 留意事項	主体的そして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産学研究	講義・演習	必修	青島 恵美子・今野 和穂・富井 悦子 加藤 尚美
単位数（時間数）	授業回数	配当時期	オフィスアワー
2単位（30時間）	15回	通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要

助産実践の質向上のための助産学研究の必要性を理解し、助産学研究のプロセスを学ぶ。具体的には、研究論文のクリティックおよび実習の事例のケース・スタディを通して、助産における研究の位置づけと根拠に基づくケア実践、研究の成果を実践に還元することの意義を理解する。

到達目標

- 1) 研究のプロセスを理解し、説明できる。
- 2) 文献検索およびクリティックの方法について、説明できる。
- 3) 実習の事例のケース・スタディを行い、文献と照合して自己の助産ケアを考察できる。

	講義日程	テーマ	内容	担当教員
1		助産における研究の役割	研究の意義、研究の目的、研究における倫理的配慮	青島
2		文献検索	文献検索の意義、文献検索の資料と活用の仕方	青島・富井
3		論文のクリティック	論文のクリティックとは	青島
4		論文のクリティック （演習）①	量的研究方法の論文のクリティック	今野
5		論文のクリティック （演習）②	質的研究方法の論文のクリティック	青島
6		ケース・スタディ	ケース・スタディとは	青島・加藤
7		ケース・スタディの検討①	ケース・スタディの検討	青島・今野 加藤
8		ケース・スタディの検討②	ケース・スタディの検討	青島・今野 加藤
9		ケース・スタディの検討③	ケース・スタディの検討	青島・今野 加藤
10		ケース・スタディの検討④	ケース・スタディの検討	青島・今野 加藤
11		ケース・スタディの検討⑤	ケース・スタディの検討	青島・今野 加藤
12		ケース・スタディの検討⑥	ケース・スタディの検討	青島・今野 加藤
13		ケース・スタディ発表会①	各自のケース・スタディの発表	青島・今野 富井・加藤
14		ケース・スタディ発表会②	各自のケース・スタディの発表	青島・今野 富井・加藤
15		ケース・スタディ発表会③	各自のケース・スタディの発表	青島・今野 富井・加藤

評価	討議への参加態度30%、 ケース・スタディ70%
教科書	助産学講座1 助産学概論 医学書院 2022年
参考図書 参考WEBページ	適宜紹介する。
事前・事後学習 留意事項	本授業は、主体的にそして積極的な態度で臨むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択	科目担当教員
助産学実習Ⅰ（継続）	実習	必修	青島 恵美子・今野 和穂・富井 悦子
単位数（時間数）		配当年次	オフィスアワー
2単位（90時間）		通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

<p>授業概要</p> <p>妊娠中期から産後2か月頃までの妊婦とその家族を受け持ち、継続して実習を行う。妊娠期においては、妊婦健康診査等を通して妊婦の経過診断を行い、助産計画を立案し、個別性のあるケアを行う。分娩期は分娩開始から産後2時間まで継続して付き添い、必要なケアや分娩介助を行う。産褥期は、入院や健診を受ける褥婦と新生児に個別性のある助産過程を展開する。また、家庭訪問を行い、地域で生活する褥婦と乳児に必要な助産過程を展開する。妊娠期、産褥期には必要な保健指導を実施する。</p>
<p>到達目標</p> <p>一般目標（G I O）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 正常な経過をたどる妊婦とその家族を受け持ち、妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期、乳児期の助産診断を行い、継続的な観点から助産過程を展開し、適切で個別的なケアを提供できる。 2. エビデンスに基づいた、安全安楽な助産ケアを提供できる。 3. 保健医療チームの一員として女性とその家族の健康を支援する助産師の役割を考察できる。 <p>個別行動目標（S B O）：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期の情報を収集し、助産診断を行い、導き出された目標に応じて助産計画を立案し、実施・評価、計画修正を行う一連の助産過程を展開できる。 2) 妊婦健康診査を行うことができる。 3) 安全で安楽な分娩介助等の対象に各期の対象に必要なケアを実施できる。 4) 妊娠期、産褥期にある対象に個別性を踏まえた保健指導が実施できる。 5) 適切な時期にパースレビューが実施できる。 6) 対象を取り巻く家族関係を把握し、新たな家族の発達や母親役割獲得を踏まえたケアを実施できる。 7) 保健医療チームの一員として自覚ある行動が実施できる。 8) 地域で生活する対象に必要なケアを実施できる。（家庭訪問が実施できる） 9) 地域における母子の継続支援や社会資源の活用について説明できる。 10) 周産期における助産師の役割や責任について述べるができる。
<p>授業の進め方</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習期間 2025年6月 実習オリエンテーション（1日） 2025年7月7日～11月7日 （分娩予定日10月上旬の人を受け持つ） 2. 実習施設 神奈川県内の病院 3. 実習方法 <ol style="list-style-type: none"> 1) ガイダンス 実習の目的、到達目標、実習内容の理解や提出物についての理解 2) 実習施設のスケジュールに沿って実習を行う 3) 実習総括・リフレクションと討論 実習Ⅰを通して得た学びと個別の課題について発表し、発展的課題について明確にする。

4. 実習内容

《妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期》の助産過程の展開を行い、個別的なケアを実施・評価する》

【妊娠期】 【分娩期】

- ・ 妊婦の基礎情報や妊娠期の経過の情報を収集し、妊婦健康診査を実施する。
- ・ 母体・胎児、胎児附属物等のアセスメントと診断を行い、個別的なケアを計画、提供し、評価・修正する。
- ・ 分娩開始を診断し、妊娠期の経過、分娩の3要素と産婦の健康状態等の情報を収集し分娩経過の診断と分娩予測を行う。
- ・ 分娩予測に基づいた産婦と胎児のリスクアセスメントを行う。
- ・ 分娩各期の産婦の健康状態（身体的・心理的・社会的）の診断を行い、産痛緩和・呼吸法等産婦のリラクゼーションや分娩促進のためのケアを行う。
- ・ 助産師や医師の指導のもと、安全安楽を考慮した直接介助を行う。

【産褥期】 【新生児期】

- ・ 分娩目的で入院した褥婦と家族の情報を収集し、退行性変化、進行性変化、母親役割獲得状況等について診断し、対象に必要なケアを提供し、評価する。
 - ・ 退院後の自宅での生活を見据え、育児等のセルフケア能力の向上を図るためのケアを実施・評価する。
 - ・ 出生直後～入院中の児の胎外生活適応状況等の日齢変化に関する情報を収集し、診断し、必要なケアを実施・評価する。
- ※全期間において、臨床指導者と適宜コミュニケーションを取り、効果的な学習を実践することが期待される。
看護師免許を取得している助産師学生として、主体的な行動と社会人として責任ある態度が期待される。

<p>評価</p>	<p>実習態度10%、実習記録30%、実習評価表60%で総合的に評価する。 評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。</p>
<p>教科書</p>	<p>助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 2021年</p>
<p>参考図書 参考WEBページ</p>	<p>日本助産診断実践研究会編「実践マタニティ診断 第5版」 医学書院 2021年 その他、適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。</p>
<p>事前・事後学習 留意事項</p>	<p>分娩介助演習等、授業で学んだ内容を復習しておく。助産過程における助産診断や助産計画、直接・間接分娩介助の評価等は、所定の記録用紙を用いて展開し、終了後まとめて速やかに提出する。</p>

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択	科目担当教員
助産学実習Ⅱ	実習	必修	青島 恵美子・今野 和穂・富井 悦子
実習日数		配当年次	オフィスアワー
8週間(日中と夜間の2交代制で実習)		通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要

分娩が開始し入院したローリスク産婦を分娩後2時間まで継続的に受け持ち、臨床指導者並びに教員の指導を受けながら分娩介助を行う。分娩介助数は10例程度とする。また、分娩間接介助は出生直後の新生児のケアについても2例程度実施する。ハイリスク妊・産・褥婦を1例受けもち、助産計画を立案し、可能な範囲で助産師の指示のもとケアを行う。

到達目標

一般目標（G I O）：

1. 分娩期の産婦と胎児を受け持ち、助産診断を行い、助産計画を立案し、助産過程を展開できる。
2. 分娩期の産婦と信頼関係を構築し、助産診断・技術を用いて安全・安楽で産婦が望む分娩を提供できる。
3. 分娩進行のためのケア、異常の早期発見・予防のためのケアを提供できる。
4. 分娩介助を行った褥婦、新生児の健康状態や、異常の早期発見・予防について理解し、適切なケアが提供できる。
5. 周産期医療にかかわるチームにおける助産師の役割を理解しチームの一員として協働できる。
6. 実習を通して、女性のライフサイクルの視点からより良い助産のあり方を考察できる。

個別行動目標（S B O）：

- 1) 分娩開始の診断を行い、分娩の3要素と産婦の健康状態から分娩経過の診断と分娩予測ができる。
- 2) 分娩進行に伴う胎児の健康状態を診断できる。
- 3) 分娩各期の産婦の健康状態（身体的・心理的・社会的）の診断が実施できる。
- 4) 分娩進行に伴う正常からの逸脱の予測や診断についてアセスメントし、説明できる。
- 5) 産婦と家族のニーズ、分娩進行状態を踏まえて、正常からの逸脱を予防する助産ケアを実施し、評価できる。
- 6) 安全・安楽で満足な出産体験ができるために、産痛緩和と分娩進行を促すケアを含む分娩期の助産ケアを実施し、評価できる。
- 7) 安全で安楽な分娩介助が実施できる。
- 8) 産婦に寄り添い、心理的なケアが実施できる。
- 9) 入院中の褥婦の心身の状態や、新生児の胎外生活への適応状態を診断し、適切なケアが実施できる。
- 10) 分娩期における緊急時の産科手術および産科的医療処置と産科スタッフの連携や協働について説明できる。
- 11) 産婦とその家族、また医療スタッフと信頼関係を構築し、周産期医療チームの一員としての自覚ある行動がとれる。

授業の進め方

1. 実習期間

2025年6月 実習オリエンテーション（1日）

2025年7月7日（月）～11月7日（金）

2. 実習施設

神奈川県内の病院

3. 実習方法

【分娩期】

直接介助：分娩第1期から受け持ち、経膈分娩の分娩介助を含む助産技術と助産ケアを10例程度行う。

間接介助：分娩直後の新生児又は母体の健康診査と助産ケアを3例程度とする。

- ・問診、外診、内診から情報収集・アセスメントを行い、母児の助産診断を行い、分娩開始の診断を行い、助産診断に基づいて、個別性に応じた分娩各期の助産計画を立案する。
- ・妊娠期の経過、分娩の3要素と産婦の健康状態等の情報を収集し、分娩経過の診断と分娩予測を行う。
- ・分娩予測に基づいた産婦と胎児のリスクアセスメントを行う。
- ・分娩各期の産婦の健康状態（身体的・心理的・社会的）の診断を行い、産痛緩和・呼吸法等産婦のリラクゼーションや分娩促進のためのケアを行う。
- ・助産師や医師の指導のもと、安全安楽を考慮した直接介助を行う。

【産褥期】

- ・バースレビューを教員（又は指導者）と実施する。
- ・分娩の振り返りを指導者で行い、自己の課題を明確にする。
- ・分娩期にある対象と家族へのケアのあり方を探求する。

※分娩介助は、安全な範囲で指導者と相談・調整して見学・一部介助・指導の下で実施する。

※周産期医療チームのなかで、助産師の役割と法的業務の倫理、責務について理解し、適宜に医師への報告、相談、連絡が自律してできるように主体的に行動する。実習終了時にカンファレンスを行う。自己の課題について評価・考察し、明確にする。

【ハイリスク実習】

ハイリスク妊・産・褥婦を受け持ち、助産計画を立案し、可能な範囲で助産ケアを行う。（分娩介助はしない）

評価	実習態度10%、実習記録30%、実習評価表60%で総合的に評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。 評価については、実習終了後に面接をして講評を伝え、課題の共有をする。
教科書	助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ [2]分娩期・産褥期 医学書院 2021年
参考図書 参考WEBページ	日本助産診断実践研究会編「実践マタニティ診断 第5版」医学書院・2021年 助産師基礎教育テキスト（日本看護協会出版会） その他、適宜、学生の経験と必要に応じて資料提示する。
事前・事後学習 留意事項	産婦・胎児、褥婦・新生児、その家族にEvidence Based Midwiferyに基づいた助産ケアが提供できるよう、事前学習、 分娩介助技術練習をしっかりと行ってから実習に望むこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産学実習Ⅲ（地域母子保健）	実習	必修	今野 和穂・青島 恵美子・富井 悦子
単位数（時間数）		配当年次	オフィスアワー
1 単位（45時間）		通年	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要 地域の母子保健事業や母子ケア活動について、福祉保健センターでの実習を通し、地域における助産師の活動のあり方と役割を学ぶ。	
到達目標 一般目標（G I O）： 地域における住民の多様なニーズに対応した母子保健サービスの提供の仕方や保健・医療・福祉関係者と連携・協働しながら地域における子育て世代を包括的に支援する為の助産師の活動のあり方と助産師の役割について理解を深める。	
個別行動目標（S B O）： 1) 保健所管内の母子保健事業の概要について関連法規を踏まえて説明できる。 2) 地域特性や地域で生活する母子と家族の特徴、助産師や保健師の活動について説明できる。 3) 乳幼児の発達特性に応じた健康診査の意義と内容を説明できる。 4) 地域で生活する母子と家族を支える社会資源、グループ、組織と活動について説明できる。 5) 地域における助産師活動のあり方について考察できる。	
授業の進め方 1. 実習期間 2025年4月18日（金）福祉保健センター合同オリエンテーション（1日） 2025年11月25日（火）～11月28日（金）※左記期間のうち、学生1人につき2日間行う。	
2. 実習施設 神奈川県内の保健所（福祉保健センター）	
3. 実習方法 1) 各施設ごとのオリエンテーション 2) 保健所のスケジュールに沿って実習を行う 3) 実習総括・リフレクションと討論	
4. 実習内容 地域の特性や、乳幼児健診、育児相談、家庭訪問、母親学級等を見学し、妊娠期～産褥、育児期にある母親の心理を理解し、生活する母子を捉え、支援の実際を理解する。実習最終日、学内にて実習Ⅲを通して得た学びと個別の課題について発表し、発展的課題について明確にする。	
評価	事前課題・レポート60%、記録内容40%で総合的に評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
教科書	必要時提示する。
参考図書 参考WEBページ	必要時提示する。
事前・事後学習 留意事項	前期に履修した内容を復習しておくこと。

授業科目名	講義・演習・実習の別	必修・選択の別	科目担当教員
助産学実習Ⅳ（助産管理）	実習	必修	今野 和穂・青島 恵美子・富井 悦子
単位数（時間数）		配当年次	オフィスアワー
1単位（45時間）		後期	別添のオフィスアワー一覧を参照

授業概要 助産所における助産業務の管理、助産所の運営の基本、および周産期医療システムについて実践の場を通して学ぶ。また、助産学の総まとめの実習として、助産ケアおよび助産師のあり方についても考察する。	
到達目標 一般目標（G I O）： <ol style="list-style-type: none"> 1. 助産師の法的な裁量権をふまえて、助産所の助産業務の範囲、役割、機能について理解できる。 2. 助産所における助産管理の特徴を理解できる。 3. 医療専門職や地域関連機関との連携のあり方を理解できる。 4. 地域に根差したより良い助産所運営の課題について考えることができる。 個別行動目標（S B O）： <ol style="list-style-type: none"> 1) 助産所の構造と設備、備品について説明できる。 2) 助産所の管理者とその義務（開設の届出、診療）について説明できる。 3) 助産所の安全管理（管理体制、業務管理、人事管理、記録物の管理、施設・防災管理等）について説明できる。 4) 助産所と保健・医療・福祉等の関連機関との連携（嘱託医と嘱託医療機関等）について説明できる。 5) 助産所の経営や母子が利用できる社会保険制度について説明できる。 6) 助産所の助産業務管理の実際を見学（観察）し、妊産婦とその家族の安全を守るための方法を説明することができる。 7) 今後の助産所の運営の課題について検討することができる。 	
授業の進め方 1. 実習期間 2026年1月7日(水)～1月15日(木) ※左記期間のうち、学生1人につき2日間の実習と最終カンファレンスへ参加する。 2. 実習施設 神奈川県内の助産所 3. 実習方法 1) オリエンテーション 2) 助産院のスケジュールに沿って実習 3) 実習総括・リフレクションと討論 4. 実習内容 助産業務管理の実際を見学し、妊産婦とその家族の安全を守るための安全対策や、他施設との連携、法律、経営がどのようになっているか理解する。助産所で行われている業務の実際や、妊産婦の実態などから、今後の助産所における助産師の運営について考察する。助産学の総まとめとして、助産ケアおよび助産師のあり方についても考察する。実習Ⅳを通して得た学びと個別の課題について発表し、発展的課題について明確にする。	
評価	事前課題30%、記録内容50%、実習態度20%で総合的に評価する。 実習時間数の4/5以上の出席をもって評価の対象とする。
教科書	必要時提示する。
参考図書 参考WEBページ	必要時提示する。
事前・事後学習 留意事項	前期に履修した内容を復習しておくこと。